合織糸・合織混紡糸

田村紡績株式会社

社長　田　村　正　衛

四日市市東茂福町10−17
TEL 四日市 6—2156（代表）
郵便番号　512

ミュンヘンへの道

—特別寄稿—

世界屈指の名コーチベードリッヒ・ケーニッヒ氏（チェコ）＝写真＝からこのほど日本協会・村田オリンピック対策部長に「世界選手権で見た日本チーム評」がとどけられたので御紹介しよう。

× ×

ユーゴとの大激戦を見て私は日本チームの水準の高さに目を見はらされた。

まったく日本の技術と精神力には驚ろいたと同時に爽快感さえ感じる。

日本チームは近代的なハンドボールを身につけており、ヨーロッパ各国と比較していちばん印象深いのはスピードがあることだ。

策戦面においても、日本はすでに一流の水準に達しているといえるし、強化に力を入れたと聞くディフェンス（守備力）もとても正確である。

しかし、すべてが満点というわけではない。いっそうの飛躍を期待していくつかの注文を記しておこう。

まず、全員が9～12m地点から強いシュートが射てるようにすることだ。日本の巧技に力が加ったら恐しいと思う。

戦術面ではもう少しシングルポストプレーを多用したらどうか。それには強シューターを3人用意すべきだろう。またジャンプシュートを得意とする選手も欲しい。

今回は一人の左腕もいなかったが、特別の理由（策戦面の…）があったのだろうか。少くとも一～二人の左腕をメンバーに加えるべきだ。

ディフェンスー特に当り、マークは今より激しく動くべきだ。

以上のほかに私が日本チームへ助言することはない。

日本のプレイヤーは世界のトッププレイヤーの備えているものをすでに持っていると断言できる。

日本チームの大飛躍を確信するとともに、村田氏のトレーナーとしての成功と栄光を祈るものです。

ベードリッヒ・ケーニッヒ

（文責・編集部）

時評

愛知協会から送られた少年ハンドボール教室の生徒作文を読んでいるうちに、ほとんどの少年少女が、模範演技を見せたオリンピック候補の野田清、藤中憲二選手（いずれも大同製鋼）に憧れをこめた一文を寄せているのに気がついた。

チームゲームでは特定の選手が浮き彫りされることを一種のタブーにして来た。

それが昨今では、アマチュアでもいわゆる〝スター〟の輩出が望まれ、大きな興味を得るようになった。

ヨーロッパの花形ハンドボール選手の人気のほどは本誌でもたびたび伝えられており、日本でもサッカーやバレーボールのトップスターに寄せるファンの関心は以前とは比べものにならない。

日本のハンドボール界にはこうしたタイプのプレイヤーがまだ生まれていない。その時代々々に〝日本のエース〟と称される名選手、好選手はいたようだが、いわゆる「絵になる選手」は出ていないのだ。一般ファンにアピールする力と技を持つ選手の誕生は、けしてプロ的行為ではないだろう。斯界もそろそろスターが出て来ていい。

少年少女の作文はそうした一面を物語っているようで、時評子には大いに肯けるものがあった。

と同時に、個人の技能というものを関係者はじっくり判断して欲しい。

7月の日韓学生で、関西学連が2部の大阪外語大から小林士郎選手をピックアップしたのは近頃にない爽やかな話題である

選抜といえどもすれば上位チームに片寄り勝ちだが、そうであってはまずい。

オリンピックを目指すナショナルチームはもちろん、国体用の全県編成などにあたって下位チームで奮斗する有能の士を見落すようであってはなるまい。

そうした努力がつづけられれば、やがては斯界にも名実備ったスターが飛び出してくると思う。

一人のスターの存在は、多くの選手の目標にもなり、強いては競技普及の一端を担うことにもつながる。

もちろん、スターは演出されて生まれるものではなく一人々々の選手の努力と精進が必須の条件だが、スターを造り出すのも競技団体の心がけるべきことの一つであることを、日本協会も照れず憶せず〝自覚〟する時期に来てはいないか。（X）

「ハンドボール」9月号（第79号）目次

表紙写真 第21回全日本高校選手権第4日準々決勝 新居浜工―中大附、枚方―下関中央工、水海道二―名女商、島原農―夙川学院

大崎電気、ワクナガ破り優勝（3年ぶり）

～第22回全日本総合選手権～

女子 大洋デパートが快調の3連覇

今年の全日本チャンピオンチームは男子が大崎電気（協推・埼玉）、女子が大洋デパート（熊本）に決まった。

――第22回全日本総合選手権は8月18日から22日まで和歌山県打田町の打田町立体育館を主会場に男子32、女子21チームの精鋭が集ってトーナメントで行なわれた。

台風などの影響で、打田中に用意された屋外コートが1日も使えず全日程を予備会場の体育館で消化するという珍しい大会になった。

男子は激しい星のつぶしあいから準決勝で学生二強が力つき、決勝戦は大崎電気―ワクナガ薬品（近畿・大阪）の史上初めて実業団による争覇となったが、延長の激戦から大崎電気が地力を発揮、3年ぶり5度目の優勝を飾った。

女子は、予想どおり大洋デパート（熊本）が圧倒的な強さを示し3連勝、5度目の優勝に輝いた。大洋デパートは、2年連続四冠王という大偉業へ好調なスタートを切った。同チームは43年8月の第20回全日本総合以来、出場した八つの全国大会（国体を含む）にいずれも優勝という快記録をつづけている。

なお、この大会は来年度から会期を12月に移し室内で開く。

全立教（前回優勝）1回戦で敗る

男子

▽1回戦

東京教員（教連）	18（8―6, 10―10）16	全立教（協推）
清商ク（東海）	15（9―7, 6―6）13	大阪経大（学連）
同志社大（学連）	25（9―9, 16―5）14	日進商会（実連）
ワクナガ薬品（近畿）	32（15―7, 17―7）14	熊本トヨタ（九州）

○……第1シード（前年優勝）の全立教が拙い試合をやった。立ちあがり有永（オリンピック候補）の豪快なプレーで6分あっさり4―0としたが、そのあと粘りのある東京教員守備陣に封じこまれた

東京は守りが立ちなおると攻撃もテンポにのり、平岡（オリンピック候補）の連続ゴールなどで24分までに7点を奪い逆転した。

2点差を追う全立教は後半19分13―13に追いつき21分有永（7MT）、22分小野口で15―13と再び優位に立って残り4分で2点差をキープ、そのまま押し切るかにみえた。ところが、せっかくの好機を反則で逸し、ダメ押し点をあげられぬスキを東京につけこまれ、27分16―16のあと28分平岡、29分30秒高橋にゴールを許しあっという間に逆転負けをきっしてしまった

○……注目のワクナガは快勝で桧舞台のデビューを飾った。トヨタも井、与縄、坂田らのベテランや秦らで健斗したが相手の多彩な攻撃にゆさぶられ前半で勝負のメドがついた。

清商クが大経大を降したのは特筆もの。大経大は西日本学生のNO1。クラブチームに比べればすべての面で恵れているハズだが、後半20分12―9とリードしながら終盤気力を欠き、服部の巧技を軸にした清商クのすばらしい斗志に押されてあっさり勝利をゆずってしまったのは不甲斐なさすぎる。

同大は日進の老巧な試合運びにはまって苦戦したが、後半松井の活躍で快勝、日進では出口のシャープなプレーが目についた。

和歌山教員、鹿大と激戦

中央大（学連）	26（12―9, 14―6）15	自衛隊勝田（実連）
三景（実連）	29（12―7, 17―8）15	岩手教員ク（東北）
和歌山教員（和歌山）	17（6―11, 11―5）16	鹿児島大（学連）
芝浦工大（学連）	33（15―5, 18―4）9	北農ク（北信越）

○……和歌山教員×鹿児島大が新進同士らしい激戦を演じた。前半は馬場口のカットインプレーを得点源とした鹿大が得点を重ねたが後半になると和歌山のサイド攻法が実りだし、じわじわと点差をつめて16分13―13とタイ。こうなると経験豊富な和歌山がカサにかかった攻めを見せ、22分には16―13と主導権を奪い、追いすがる鹿大をふり切った。

○……自衛隊勝田が持ち前の体力を活かして最後まで中大に食い下ったのは好感がもてた。

中大は、勝田の突進をもてあます場面もあったが花輪（オリンピック候補）、佐々木、植田らが随所に巧技を発揮、後半一気にスパートして10分18―11と開き勝負を決めた。

期待された岩手教員は三景に対して20分まで互角の戦況だったが前半終了まぎわシュートミスから逆襲をうけてリードを奪われたのがひびいた。北農クも芝浦工大の明石、森らによる豪快なプレーを防ぎ切れず完敗。

日体大、埼玉教員を降す
大阪イーグルスが53得点

日体大（学連）	16（12―5, 4―7）12	埼玉教員（教連）
大阪イーグルス（教連）	53（27―4, 26―8）12	坂出常盤ク（四国）
丸善石油（和歌山）	26（8―8, 10―10 : 1―1, 3―3 : 1―2, 3―0）24	広島商大（学連）
常盤工業（実連）	18（8―5, 10―5）10	桃山学院大（学連）

○……学生・教職員のチャンピオン同士、日体大×埼玉教員は、埼玉に連戦の疲れ（注・全日本教職員から中一日）がのぞき前半13分まで1―1ともちこたえながら、

そのあと日体大のスピードに押しこまれ田中、高橋らの巧技と斉藤(オリンピック候補)のジャンプシュートにポイントを許した。

後半、しきりとメンバーチェンジする日体大のスキをついて26分には12—15までつめたが追い切れなかった。

○……丸善×広島商大が第2延長にもつれこんだ。互いに肝心のところでディフェンスが甘く、特に丸善は後半10分12—9とペースをつかみかけたのだが相手の反撃を許し、一方の広島も後半25分16—17から連続ゴールで逆転、気勢をあげながら29分40秒に同点(18—18)にされてしまった。

延長後は広島が押し気味で第2延長前半までリードしたが、すべてのかかった後半5分間に丸善は刀称の7MTで12度目のタイとし、そのあと提本、刀称が気力のゴールをあげて鮮やかな逆転勝利を奪った。

○……大阪イーグルスがGKを除く全員ゴールで得点と得点差の大会記録をつくった。

これまでの最高得点は第15回大会で芝浦工大が本田技研(三重)から奪った45点。点差では37点差というのが二度あった。(大崎電気43—6 土佐高OB(高知)=第20回、芝浦工大45—8 本田技研=第15回)

なお、全国大会における最高得点・得点差試合は第10回全日本教職員の大阪イーグルス55—5京都教員ク。

〃日本記録〃は編集部調べでは得点が40年6月に早大が記録した66点、点差は41年6月全日本総合都予選の早大学院ク65—2雪ケ谷クの63点差である。(上廻る記録があれば編集部まで御一報下さい)

全日本歴代チャンピオンチーム

	男子	女子
昭12	大塚クラブ	………
昭13	日体専	………
昭15	日体	倉敷高女
昭17	日体倶	倉敷高女
①昭25.1	日体桜	愛知クラブ
②昭25.11	スワロー松	全山梨
③昭26	スワロー	東京芙蓉ク
④昭27	セントポールA	………
⑤昭28	全日体大	全静岡城北高
⑥昭29	全日体大	全静岡城北高
⑦昭30	西日本日体OB	水海道二高
⑧昭31	全日体大	半田高
⑨昭32	全日体大	愛知紡
⑩昭33	全日体大	愛知紡
⑪昭34	芝浦工大	愛知紡
⑫昭35	芝浦工大	愛知紡
⑬昭36	芝浦工大	愛知紡
⑭昭37	大崎電気	愛知紡
⑮昭38	立教大	大洋デパート
⑯昭39	大崎電気	大崎電気
⑰昭40	大崎電気	大洋デパート
⑱昭41	全立教	大崎電気
⑲昭42	大崎電気	田村紡
⑳昭43	全立教	大洋デパート
㉑昭44	全立教	大洋デパート
㉒昭45	大崎電気	大洋デパート

○内数字は全日本総合の回数

名城大、岩手大が敗退

		前半	後半		
住友化学菊本(実連)	23	13—5	10—3	8	名城大(学連)
全日体大(関東)	25	10—8	15—2	10	日新製鋼呉(中国)
大同製鋼(東海)	32	18—13	14—8	21	奈良ク(近畿)
大崎電気(協推)	27	13—3	14—4	7	岩手大(学連)

○……ほとんどの試合が前半で決まった。わずかに奈良クが大同と互角にわたりあい鳥井、樽井の好シュートで前半10分1—6と引きはなされながらも反撃の機会を狙っていたのが目についた程度である。大同は野田、藤中の両オリンピック候補が定評どおりの活躍を示し二人で21点を叩き出した。奈良クも力いっぱいの試合ぶりだったが、シュート、パスに小さなミスがあった。

学連勢の低調はどうしたことか10校のうち6校が初日で姿を消した。名城大にしても岩手大にしても強者に精いっぱいの挑戦ではあったが、迫力に乏しい。スピード一点ばりながら日体大二軍の全日体大が中国1位の日新製鋼を圧倒しつづけたのをみても、学生の最大武器は若さと力であるハズだ。

中央大、三景に降る

▽2回戦

		前半	後半		
東京教員	19	9—9	10—9	18	清商ク
ワクナガ薬品	27	14—10	13—8	18	同志社大
三景	19	11—7	8—7	14	中大
芝浦工大	27	11—7	16—6	13	和歌山教員

○……実業団対学生の2試合に注目が集った。三景×中大は、中大が再三優位に立ちながら一押しが足りず、そこを三景に狙われた。

特に後半は5分までに3ゴールして10—8とリード、一気に差をつけるかにみえたが、そのあともろさを露わし連続6ゴールを奪われ、三景に逃げこまれてしまった。

ワクナガ×同大は、同大の気力にあふれた攻防で好試合が演じられ盛りあがった。しかし攻め口豊富なワクナガは次第に地力を発揮し押し切った。同大では世界の舞台をふんだ中井(オリンピック候補)の充実と松井、藤井、GK岩田らが目立った。

○……清商クがこの日も善戦した追いあげたところで課せられた4本の7MTが敗因となったが、最後までみせた勝負への執念はみごとだ。東京は終盤苦戦においやられたが28分の7MTを平岡が決め辛勝。

大崎、大同製鋼を制す

		前半	後半		
日体大	20	12—6	8—3	9	常盤工業
大阪イーグルス	30	18—5	12—6	11	丸善石油
全日体大	14	7—5	7—7	12	住友化学菊本

大崎電気 15（10−6 5−7）12 大同製鋼

○……大同がいかに大崎へ食い下るか興味がもたれたが、大崎は前半10分までに全員のムラのない得点力を活かし5−2と先制、以後もたえず有利に試合を進めた。大同も前半20分5−6と逆転のチャンスをつかんだが、そのあとわずかなスキを近森、飯田（ともにオリンピック候補）に狙われ点差を再び開かれたのが痛かった。

終盤10−16から戸谷の好技などで3点を返したものの大勢はくつがえせず大崎は余裕を残して制勝

○……全日体大×住化は住化が押し気味だったが、全日体大は7−7のあと後半9、11分の7MTを藤原、細木が決めて調子づき、加藤、白石らで必死に粘る住化を、小林の活躍などでつきはなした。住化のベテラン北山が相変らず元気なプレーを見せていたことを特につけ加えておきたい。

芝浦工大、準決勝へ進む

▽準々決勝

ワクナガ薬品 20（12−3 8−6）9 東京教員

【東京】得
GK：綿貫 0
FP：平岡 5、藤原 0、山口 0、渡辺 0、高野 0、大西 1、小山 3、島田 0、鈴木 0、手島 0

（審・辻、藤田）

得【ワク】
GK：0 松田、0 今井
FP：2 市原、4 木野、1 早川、2 森、5 高橋、6 戸田、0 松井、0 久保

20（1）7MT（1）9

○……前半ワクナガはダブルポストを多用し戸田、高橋の巧者が得点、さらに木野（オリンピック候補）がロングを効果的にとばして鮮やかな攻撃を示した。

東京は中央からの一本調子な攻撃のためポイントを奪えず、後半GK綿貫の好守と平岡のロングで反撃したものの前半の大差をくつがえすことはできなかった。（吉川）

芝浦工大 16（10−4 6−5）9 三景

【三景】得
GK：西牧 0、尾形 0
FP：喜田 1、武井 0、榊 2、高梨 5、内藤 1、竹村 0、上平 0、山原 0、伊藤 0、池崎 0

（審・中井、川口）

得【芝浦】
GK：0 平野
FP：1 鈴木、4 明石、1 大江、3 木全、4 新実、0 細江、3 森、0 井出

16（1）7MT（1）9

○……前半、芝浦は速い動きで三景をゆさぶりサイド、中央を使い分けて得点をあげた。

先手をとられた三景はカットから得点機をつかんだものの、さして強いとも思えぬ相手ディフェンスを攻めあぐみ点差を縮めることができなかった。後半芝浦はシュートが雑で思うように加点できなかったが前半の優位を活かして三景をふり切った。（石野）

日体大 21（10−3 11−13）16 大阪イーグルス

【大阪】得
GK：島崎 0、広川 0
FP：東 1、井上 4、松尾 3、青木 2、北岡 2、福井 2、樫塚 1、市田 1、奥浜 0、河原崎 0

（審・加藤、青木）

得【日体】
GK：0 本田、0 大村
FP：6 斉藤、0 亀谷、4 安達、4 串野、1 田中、1 氷海、3 高橋、0 池本、2 松岡、0 松原

21（0）　（2）16

○……大阪が若い日体大をいかに自分のペースにまきこむかがみどころと思われたが、大阪は全日本教職員からの疲れがのぞき、立ちあがりから日体大の力と技に押しまくられた。

後半になって大阪はようやくベテラン揃いらしい巧妙な試合運びを見せたが、日体大も斉藤、串野が要所でポイント、優位を握ってはなさず押し勝った。

大阪が後半にみせた動きをもう少し早く取りもどせば、さらにもつれた好試合になったろう。（稲石）

大崎電気 21（11−4 10−5）9 全日体大

【全日】得
GK：高橋 0、野村 0
FP：藤原 2、池田 3、細木 0、大塚 0、古沢 0、小林 2、浅原 2、藤田 0、河先 0、前田 0

（審・佐野、岡前）

得【大崎】
GK：0 下里
FP：1 西村、4 近藤、2 近森、2 飯田、5 籏野、0 東、3 谷口、1 林、3 沢田

21（3）7MT（2）9

○……日体大の若手（2軍）で固めた全日体大。過去5回の優勝を誇る由緒あるチーム名をつけ、若々しい試合ぶりで都予選以来勝ち進んで来たがやはり大崎には一歩をゆずった。

大崎はスピーディな攻撃で着々と得点する一方、長身を活かした厚いディフェンスで全日体大のアタックを食いとめ、全日体大がセットに転じるとカットに出て得点機をつかむなど巧く試合を進めた

後半は互いに早いパスワークから攻めあったが、大崎の確実さが上廻り制勝。点差の割に活気のある試合だった。（加藤）

ワクナガ堂々の決勝進出
大崎電気も日体大に快勝

▽準決勝

ワクナガ薬品 24（12−9 12−6）15 芝浦工大

【芝浦】得
GK：平野 0、渡辺 0
FP：鈴木 0、明石 4、大江 4、木全 4、新実 2、森 1、井出 0、細江 0

（審・近藤、狩野）

得【ワク】
GK：0 松田、0 今井
FP：1 市原、6 木野、4 早川、3 戸田、2 森、8 高橋、0 久保、0 松井

24（2）7MT（2）15

○……ワクナガは充実の陣容をフルに活かし初出場で決勝進出を果した。

前半のワクナガはすべりだしが悪く、得点に結びつく大事な時機でのパスミスが目立った。それが

芝浦の速攻を誘発したのだが前半なかばから続けて得点し、7—4と点差を開きその後は優位にゲームを展開した。一方芝浦もよく走り、相手のパスミスを得点に結びつけ後半開始直後木全のカットインにより2点差としたが、ワクナガはサイド・ロング或いはポスト多彩な攻撃をみせ、次第に点差を大きくした。

芝浦は若さに溢れるプレーを展開しながらも、ディフェンスの荒さをつかれ、相手にリードを許していた。（宍戸）

大崎電気 18（7—7, 11—4）11 日体大

【日体】	得
GK 本田	0
GK 大村	0
FP 亀谷	0
安達	1
串野	2
田中	2
氷海	2
斉藤	3
松原	0
高橋	1
松岡	0
池本	0

得	【大崎】
0	GK 下里
3	FP 近森
4	近藤
1	東
6	飯田
1	籏野
0	西村
1	谷口
2	沢田
0	林

（審・佐野、岡前）

18（3） 7MT （1）11

○……たがいに立ちあがりは慎重4分をすぎてから大崎は飯田、日体大は氷海が得点を記し、これを口火に激しいゴールの奪いあいになった。大崎が確実にチャンスをつかんだのに対し、日体大は絶好機を2回逸した。結果的にはこれがかなりひびいた。それでも15分すぎからエース斉藤にボールを集め追いつきシーソゲームの様相を呈して7対7にて前半を終了。しかし後半に入って大崎は更にディフェンスを固めたため日体大はその堅陣をくずすことができずGK下里（オリンピック候補）の好守もあって点差を開いた。（板橋）

延長で大崎決勝の3点

大崎電気 14（8—5, 3—6, 2—1, 1—0）12 ワクナガ薬品

【ワク】	得
GK 松田	0
GK 今井	0
FP 市原	1
木野	3
早川	4
森	0
高橋	4
戸田	0
松井	0
久保	0
藤井	0
馬野	0

得	【大崎】
0	GK 下里
1	FP 西村
1	近藤
0	近森
3	飯田
3	籏野
3	東
3	谷口
0	林
0	沢田
0	佐藤

（審・狩野、近藤）

14（0） 7MT （2）12

○……古豪対新鋭の形容がピッタリ。しかも現在国内の最高水準にある両軍セブンの対決だ。さすがに決勝戦とあって両チーム共にエキサイトぎみの出足で得点のチャンスをなかなかつかみきらず3分過ぎからやっと大崎がサイド、カットからの速攻と相手ミスをそれぞれ得点に結びつけ、連続4点を先取した。一方ワクナガも早川（オリンピック候補）が巧みなジャンプシュートを連続決め追いあげた。しかし同点にしたあと速攻ミスなどあって前半大崎にリードを許した。大崎は木野をうまくマークし、シュートを打たせぬ作戦がリードに結びついたものと思われる。

○……後半になって大崎は前半の動きがなくなり得点をあげるに四苦八苦のオフェンスになったのに対し、ワクナガは逆にペースにのって動きもよくなり速攻、ポストプレーなどを次々に決めて追い込み遂に十七分高橋が7MTを決め同点とした。その直後再度の7MTでワクナガ初めてリードをするかに見えたが、木野が力きみすぎたのか失敗。このあと大崎は一たんリードしたがワクナガは7MT速攻、サイドシュートなどでタイムアップ寸前同点として延長戦になる。

○……延長戦になって両チーム共に谷口、木野と速攻を決め、決勝戦にふさわしい好ゲームを展開、観衆をわかせたが最後大崎は飯田が得意のロングシュートで勝ちこし点、さらに東（オリンピック候補）のポストプレーでとどめをさしワクナガの追撃を振り切った。

決勝戦を最後まで好ゲームに盛りあげたカゲにはGK下里の好守があげられよう。（岡前）

美和ク、ブラザーを降す

女子

▽1回戦

東北宗形製作所（福島）9（4—1, 5—4）5 中京大（愛知）

日体大（東京）18（9—1, 9—0）1 粉河高（和歌山）

全東教大（東京）10（5—2, 5—4）6 関西日体ク（大阪）

日本ビクター（茨城）14（4—1, 10—4）5 大阪体大（大阪）

山陽女OG（広島）20（7—4, 13—2）6 全夙川（兵庫）

○……注目の東北宗形×中京大は中京攻撃陣に鋭さがなく、宗形がセットプレーから得点機を巧みにつかんで緒戦を飾った。中京大も走りでは負けなかったが決め手を欠いた。

解散した三菱鉛筆（神奈川）の主力が移籍、話題をまいた日本ビクターは前半こそギコチのない試合ぶりだったが、後半になると蓮見姉のミドルシュートを中心に加点、最後は大差がついた。大体大もGK戸谷の好守や森崎の健斗で食下ったが及ばなかった。

▽2回戦

大洋デパート（熊本）21（13—1, 8—5）6 東北宗形製作所

東京重機（東京）12（7—4, 5—7）11 甲子園大（兵庫）

ブラザー工業（愛知）14（7—3, 7—9）12 全岩手（岩手）

美和ク（東京）13（4—3, 9—5）8 日体大

高校増え一般はやや減

今年度の日本協会登録

日本協会はこのほど昭和45年度の登録状況をまとめた。5月31日の登録期限日をもとにしたものでそれによると全登録チーム数は一五四五（男子一〇三二、女子五一三）。種別では高校が一一一九と圧倒的な数字を示している。

昨年9月現在の数字に比べると総数では20チーム減。これは高校が23チーム増を示しているにもかかわらず一般が男子で34、女子で9と計43チーム減っていることによるものだ。総務企画部では登録料の値上げが影響したとみており追加登録などで年度末には昨年なみになるだろうといっている。

【昭和45年度日本協会チーム登録数】▽総数 一五四五▽高校一一一九（男六六六、女四五三）▽一般三八三（男三二三、女六〇＝いずれも含学生）▽教員四三

技術指導委員の研修会

日本協会技術指導部では初の技術指導部委員の研修会を行なうことになり、次のように日程を発表した。

▼研修会日程▽第1日（9月17日）13時、委員会 19時、IHFコーチシンポジューム及びユーゴハンドボールスクール報告会、第7回世界選手権報告。▽第2日（9月18日）、実技及びオリンピック候補強化合宿見学。

田村紡（三重）17（7－3 10－3）6 全東教大

日本ビクター 19（9－2 10－0）2 和歌山ク（和歌山）

東女体大（東京）21（9－1 12－8）9 大洋紡（岐阜）

大崎電気（埼玉）27（13－0 14－2）2 山陽女OG

○…甲子園大が重機を苦しめた甲子園は後半3分4－9とリードされながらGK柿田の堅守で相手の攻撃を封じる一方、中本、岩井らが好シュートを放って追いあげ15分には8－9とした。しかし重機も19分滝口、20分牧野で主導権をはなさず23分再び1点差とされたが24分鷺谷のゲットでどうにか勝利を確定づけた。

そのほかでは、日体大を後半一気に攻めこんで快勝した美和クの試合ぶりとブラザーに食い下った全岩手のまとまりが目についた。

東女体大もスピードのある攻撃で学生勢から唯一チームベスト8へ駒を進めた。

▽準々決勝

大洋デパート 13（7－4 6－1）5 東京重機

○…両チームよく走りテンポの速い好ゲームになった。大洋は垂水、枝尾が島田の好配球からシュートを決め、重機は牧野にボールを集めて応戦した。しかし時間の経過とともに層の厚い大洋が地力を示しはじめ、後半になると渡辺の鋭いプレーが加って重機を圧倒した。

重機も成長のあとがうかがえる試合ぶりだったが、攻防の多彩さで大洋に一歩をゆずった（吉川）

美和ク 14（6－2 4－8 … 0－1 1－0 … 1－0 2－0）11 ブラザー工業

○…ベテラン揃いの美和に巧く先行されたブラザーは後半の猛迫が実って延長へもちこんだ。

延長前半ブラザーは藤田のゲットで先行したが、美和も粘って山崎でタイ、第2延長へもつれこんだ。練習量でブラザー有利とみられたが、美和クはさすがに試合かけ引きが巧く、山本の好プレーで12－11とすると再びペースを握り後半、加藤、鈴木のダメ押し点でベスト4へ進んだ。ブラザーは前半のシュート、パスの失敗が惜しまれる。（石野）

日本ビクター 6（2－3 4－2）5 田村紡

○…田村はビクターのシュートミスから逆襲を成功させ7MTを加えて前半は優位に立った。ところが後半になるとビクターは田村の動きを読み追加点を阻む一方、ロングシュートとフリースローからの変化で逆に有利となり、勝利を奪った。実力伯仲の好試合といえたが、ビクターの勝因にGK吉田の好守があげられる。（岡前）

大崎電気 8（2－1 6－4）5 東京女体大

○…前半は互いの守りを崩すスピードがなく貧攻をくり返すばかり。後半も盛りあがりがないままに経過したが、大崎は木幡のシャープなプレーと寺尾の2本の7MTでペースを握り、高橋、川井らで懸命に粘る東女体大をおさえた東女体大の健斗を賞したい。（宍戸）

▽準決勝

大洋デパート 16（9－0 7－1）1 美和ク

得	【美和】	
0	山田	GK
0	丸山	GK
0	加藤	FP
0	早川	FP
0	鈴木	FP
0	小林	FP
0	栗林	FP
0	山崎	FP
1	久保田	FP
0	山本	FP
0	荒川	FP
0	黒川	FP

（審・藤辻 藤田信）

得	【大洋】	
0	小原	GK
6	垂水	FP
0	米	FP
1	渡辺	FP
0	三宅	FP
3	島田	FP
1	枝尾	FP
2	小林	FP
0	村中	FP
2	蔵田	FP
1	加子崎	FP

16（1） 7MT （1）1

○…健斗の美和クも大洋デパートの迫力のある攻守の前にはまったく手も足も出なかった。

試合開始直後大洋はゴール前の早い動きと好パスで美和ディフェンスをゆさぶり、1分枝尾、2分渡辺と連続ゴールし早くも優位に立ち、その後も速攻、ポストプレー等多彩な攻撃を見せ、美和をまったく寄せつけず、垂水が連続でゴール決める活躍もあって前半6勝負を決めてしまった。

○…一方、美和は、スタミナ不足のためにゴール前の走りがなく単調な攻撃を繰り返すだけで、大洋のディフェンスを崩すことができず数少いチャンスから打つシュートも小原の好守にはばまれて得点することができず、後半15分7mスローを久保田が決めた一点にとどまった。（佐々木）

大崎電気 9（5－3 4－4）7 日本ビクター

得	【ビク】	
0	吉田	GK
0		GK
3	蓮見姉	FP
1	江川	FP
0	八重樫	FP
2	阿保	FP
0	阿部	FP
0	蓮見妹	FP
1	大塚	FP
	大滝	FP

（審・中井 川口）

得	【大崎】	
0	和田	GK
0	小堀	GK
0	木幡	FP
0	佐藤	FP
4	寺尾	FP
3	新島	FP
1	三浦	FP
0	真田	FP
1	岩井	FP
0	長谷川	FP

9（0） 7MT （0）7

○…大崎は開始直後新島の左サイドからのシュートで先行、ビクターも大塚がすぐ返しともに好スタートを切った。そのあと大崎は寺尾、岩井の得点でリード、前半なかばから両チームとも動きがとまりゴール前のパスワークからミドルシュートとポストプレーをねらう戦法に出たため動きのあるプレーが殆んど見られず前半終了

後半ビクターは阿保などの活躍で大崎を追いあげたが、前半同よう単発シュートが多く、前半の2点差が最後までたたってしまった（村上）

▽決勝

大洋デパート 11（7－0 4－4）4 大崎電気

得	【大崎】	
0	和田	GK
0	小堀	GK
0	木幡	FP
0	新島	FP
1	寺尾	FP
3	三浦	FP
0	真田	FP
0	長谷川	FP
0	佐藤	FP
0	岩井	FP

（審・中井 川口）

得	【大洋】	
0	小原	GK
3	垂水	FP
0	米	FP
3	渡辺	FP
0	三宅	FP
2	島田	FP
1	枝尾	FP
1	小林	FP
1	村中	FP
0	蔵田	FP

11（1） 7MT （0）4

○…立ち上り大崎は大洋の厚いディフェンスにはばまれいたずらにボールを廻すのみであった。これに対し大洋は大崎の遅攻作戦になやまされながらも本来の早いペースでゲームを進め、大崎のパス、シュートミスからのボールを速攻に結びつけ渡辺、垂水、枝尾が着々得点前半7－0と一方的なゲームとなった。後半に入るや大崎は大洋の3名のメンバーチェンヂに乗じ、みちがえるような積極作戦にでてようやく活気をとりもどし三浦、寺尾の活躍で15分は大崎ペースとなった。大洋はメンバーチェンヂでコンビがとれず、いたずらにロングシュートを連発したが決まらず15分過ぎよりようやくおちつきをとりもどし、小林がとどめの見事なロングシュートをきめ三連勝の栄冠をものにした。

（藤田信）

■ジューキミシンは精密工学の結晶とうたわれる高級品。シャープなスタイリングで、その名を高めています。

東京重機工業株式会社

新居浜工初優勝（男子）

下関中央・中大附は準決勝で敗退

水海道二高久々の栄冠（女子）

新居浜市高・静岡城北準決勝で敗る

第21回インターハイは8月3日から8月8日の5日間彦根市に男女各52チームを全国から集めて行なわれた。連日の暑さにめげず、熱戦が展開された。準決勝の日に朝雨が降ったが、まずまずの好天にめぐまれ幕を閉じた。

男子では、準々決勝で、優勝の最右翼と見られていた下関中央工と中大附が姿を消し、新居浜工と枚方高が優勝を争ったが、新居浜工が枚方高の追撃をふりきり、初優勝をとげた。

女子では、新居浜市商、水海道二高、静岡城北高、島原農が準決勝に残り、準決勝で新居浜市商を破った関東の覇者水海道二高が島原農の挑戦をさけ、第八回大会（32年）以来、12年ぶり二度目の優勝を飾った。（この大会の戦評はすべてゲーム通し時間にしてあります）

第21回全日本高校選手権

男子

順当な結果におわる

▽一回戦

盛岡商高（岩手）13（8―2／5―7）9 浦和市立（埼玉）

両チームとも動きがにぶかったが、盛岡が速攻で前半をリード。後半、浦和は橋本、細淵のロングなどで38分には9―9と追いついたが、盛岡は40分からの6分間に4点連取して勝った。（門前）

小倉工高（福岡）19（9―10／10―4）14 追手前高（高知）

小倉工は前半ミスが多く、リードを許したが、後半、速攻でリードを奪い、5点差をつけた。両チームの走力の不足が見えた（今村）

枚方高（大阪）26（13―2／13―4）6 津工高（三重）

6分までは互いに2点をとりあったが、その後は全く枚方のペース。43分には枚方はGKを負傷で欠き、FPを急造のGKにして対戦したが快勝した。（佐野）

八幡工高（滋賀）19（12―3／7―6）9 福島高（福島）

八幡は快調なスタートで、前半を12―3でリード。福島は後半、八幡の疲れに乗じたが、一進一退前半の点差が大きくものを云い、八幡は地元の声援に応えた。（中塚）

星稜高（石川）20（8―4／12―9）13 鰺ケ沢高（青森）

星稜はミドルで得点を重ねたのに対し、鰺ケ沢はポストにこだわりミスを重ねた。鰺ケ沢はサイド攻撃を考える必要がある。（岡前）

添上高（奈良）20（7―5／13―4）9 倉敷商高（岡山）

前半は両チームともミスが多く凡戦。後半添上は倉敷のミスを速攻に結びつけ大差をつけた。（門前）

上田高（長野）23（10―4／13―6）10 城北高（徳島）

スタートは城北良く2点を先取したが、その後、上田はおちついた攻撃で着々加点し、一方的なペースとなった。両チーム共、ディフェンスが荒く、技術不足をカバーしようとしていた点は改める必要がある。（近藤）

加納高（岐阜）18（8―6／10―6）12 大和高（神奈川）

大和はドリブルが多く、チャンスをつぶすとともに速攻のツメが悪かった。ポストを巧みに使う組織的プレーの加納の順当な勝利と云える。（森）

和歌山商（和歌山）18（9―6／9―3）9 境港工高（鳥取）

和歌山のポスト、境港のロングと攻めあったが、後半和歌山のポストプレーと速攻が冴え、大きく点差が開いた。和歌山はロングに決定力が欲しい。（島田）

笠間高（茨城）16（7―10／9―4）14 鶴崎工高（大分）

激しい攻防で見応えのある試合技術的には互角であったが、最後まで走った笠間の逆転勝ち。一人良く7点をあげた金本の活躍がめだった。

三本松高（香川） 13（3—5 10—6）11 彦根東高（滋賀）
三本松の調子のでない間に彦根は西沢・小林でリード。後半は速攻を中心にした三本松のペース。彦根も終るまぎわまで粘ったが、一歩力不足であった。（野村）

佐世保北高（長崎） 25（11—3 14—3）6 大石田高（山形）
すべての点で上廻る佐世保北の順当勝ち。佐世保は速攻、ポストプレーから面白いように加点した大石田は個人技に走りすぎ、シュートも散発的にしかうてず、大敗した。（大塚）

兵庫工高（兵庫） 23（14—5 9—8）13 都城工高（宮崎）
兵庫に一日の長あり。都城はパスワーク、セットとももう一歩の研究がほしい。都城栗山の動きは光っていた。（中沢）

松蔭高（愛知） 18（9—5 9—3）8 横浜一商（神奈川）
松蔭はサイドからのシュートを良く決め快勝。横浜は前半の終りにややペースを摑んだが、ゴール前の攻めに鋭さを欠いた。（梅野）

松江工高（島根） 14（6—2 8—4）6 佐原高（千葉）
どちらも決め手なく、終始凡戦速攻に一日の長のある松江が佐原を押えた。（幸田）

広高（広島） 22（12—3 10—0）3 巻高（新潟）
広は巻のマンツウマン的防禦にとまどったがペースを摑み快勝。巻は攻撃が甘く、パスも走りも横に流れ、ムリなシュートから失敗を重ねた。（岡村）

湯沢高（秋田） 18（10—7 8—6）13 国学院栃木高
技術的に優れた両校激戦であったが、ロングシューターをもつ湯沢に一日の長があった。高校チームらしくキビキビした好ゲームであった。（幸田）

函館東高（北海道） 8（7—2 1—5）7 塔南高（京都）
前半は函館、後半は塔南と速攻で得点を挙げた。塔南は最後のサイドのノーマークを決めることができず涙をのんだ。（島田）

清水市商（静岡） 12（3—4 9—3）7 下松工高（山口）
下松は前半良く走ったが、後半それがなくなったのが敗因。清水は後半速攻とサイドで大きく点をあけた。両チームとも荒さがめだち、マナーにかける選手も散見された今後の成長を望む。（関川）

古川工高（宮城） 18（10—3 8—8）11 財部高（鹿児島）
財部スタートは良かったが、10すぎから古川のペース。財部の守備力の向上、古川のゲーム慣れ不足は改善の余地がある。（岡村）

桜台、八幡工、広、清水商惜敗

▽二回戦

下関中央工（山口） 16（7—4 9—4）8 盛岡商高
盛岡は昨日に比べ出来が悪く一方、下関は中野・中川のコンビのロングシュートで着々加点し、楽勝した。（中西）

小倉工 13（5—4 8—7）11 桜台高（愛知）
前半はロングシュートの応しゅうで互格、後半はポスト、サイドロングと多彩な攻撃の小倉と速攻の桜台の対戦、僅かにペースを握ることの多かった小倉工が46分から3点を連取して試合を決定することになった。（常田）

枚方高 11（7—3 4—6）9 八幡工高
枚方はGKの負傷でFPの和気を急にGKに、しかしスタートは快調に15分には5—1。八幡はシュートは打ったが、和気の好守にはばまれた。後半懸命に追ったが、追い切れず惜敗。（太田）

明星高（東京） 23（11—2 12—5）7 金沢経大附星稜高
攻守に数段優れ明星の一方的な勝ち。星稜は堅い守備の明星に対し、中央攻撃に終始したのは一考を要しよう。（山田）

添上高 15（9—4 6—4）8 熊本市商
スタート直後は互格であったがあとは一方的な添上ペース、北村坂本の二人しか得点できない熊本と全員得点のできる添上の差が点差に現れた。（中西）

加納高 15（7—3 8—5）8 上田高
上田は加納の脇若、神山をマンツウマンに出たが、脇若にフリースローを決められ、また疲れた所をこの二人にロングを、更に速攻を決められた。両チームともラフプレがやや見られた。（幸田）

和歌山商 15（5—7 10—4）11 塩山商高
前半は塩山の速攻、後半は和歌山のポストと速攻、29分の同点以後は全く和歌山ペースになり、見事な逆転勝。（河本）

高岡東（富山） 18（10—5 8—10）15 笠間高
7分までは互格、その後25分まで高岡ペースで10—5と大きく開いた。後半笠間も良く追ったが、43分40秒に13—14と1点差にするのがせいいっぱいであった。（太田）

富岡高（群馬） 16（5—6 11—3）9 三本松高
前半は速攻を中心とした三本松ペース。35分頃から富岡は速攻とポストプレーで大きく引き離した三本松の体力不足が敗因。（砂長）

佐世保北 15（4—2 11—6）8 都島工高（大阪）
大型チーム同士の対戦。前半は両チームともミス多く、僅かに吉田のカットインの得点だけ佐世保がリード。後半は佐世保が多彩な攻撃を見せたのに対し都島はミドルで対抗したにとどまった。（佐野）

松蔭高 17（7—7 10—6）13 兵庫工高

前半は互格。後半は松蔭良く走り、若杉、横井がこれを良く決めて差をつけた。兵庫の速攻・守備のまずさが敗因（青木）

興南高（沖縄）16（9—3、7—7）10 松江工高

両チームとも個人技に頼る攻撃に終始。シュート力とチームワークに優る興南の順当な勝利（奥村）

新居浜工（愛媛）13（6—4、7—7）11 広高

前半は新居浜の遅攻と広の速攻の対戦。シュート力に優れる新居浜がリード。後半も同様の経過をたどったが、40分に7MTをおとしたのがひびいた。（砂長）

函館東高 17（8—5、9—9）14 湯沢高

函館のスタンデングシュートが決ったのに対し、湯沢はポストにこだわりすぎた。（岡前）

若狭高（福井）13（4—5、9—7）12 清水商高

両チームともよく走り、攻撃の巾もあったが、ミスがめだった。若狭は清水の荒い守備に攻めあぐんだが後半松本の活躍で勝利を握った。守備をフェアに。（石川）

中大附高（東京）21（12—6、9—4）10 古川工高

多彩な攻撃の中大附の完勝。古川の粘り強い健斗は賞されよう。（鈴木）

▽三回戦

若狭・小倉工・富岡 惜くしも敗る！

下関中央工高 11（4—4、7—5）9 小倉工高

両チームとも動きがにぶく、ミスが続出し、個人プレーに走った最後の1分に総合力に僅かに勝る下関が2本の速攻をものにして勝った。内容のない凡戦（大塚）

枚方高 16（8—6、8—5）11 明星高

明星はシュートが雑で、負傷出場のGK藤井の好守にはばまれた一方、枚方はダブルポストからのジャンプシュートをよく決め、明星をつきはなした。（梅野）

加納高 12（7—5、5—4）9 添上高

両チームともセットオフェンスからミドルをうつ同形のチーム。僅かにシュート力に勝る加納が荒い添上のディフェンスから得た7MTを確実に決めて、着々加点して添上をふりきった。

和歌山商高 17（8—6、9—7）13 高岡東高

17分には高岡は5—3とリードしかし20分以後和歌山に4点を速取され8—6で前半を終了。

後半が始まると和歌山は速攻を出し、30分には11—6と5点差をつけ、大勢を決っし、そのままふりきった。（大塚）

佐世保北高 12（4—3、3—4、2—0、3—0）7 富岡高

ベスト8入りを目前にし、両チームとも固くなり、これといったプレーの見られぬままにおわった延長戦に入ってから、佐世保は吉田の好リードと巧みなフェイント攻撃で大差をつけた。両チームとも良くまとまったチームで、リラックスしていれば好プレーも続出したと惜しまれる。（門前）

松蔭高 12（5—4、7—5）9 興南高

興南の攻撃は深さがなく、単調に終始した。僅かにこの試合、1人良く8点をあげ大活躍した宮里の個人技で加点するのみであった一方松蔭は雑なシュートをくりかえし、自らを苦しめたが、若杉・川畑らを中心にまとまっていたので辛勝することができた。（奥村）

新居浜工 16（7—1、9—7）8 函館東高

新居浜工はチームワークよくベンチとの連絡も密、連日の暑さにもめげず好プレーを展開。特に喜井を中心にして良い動きを見せた時折見せる神野・喜井のコンビによる空間パスプレーは見事だった一方函館は動きが純く、パスもゆるく、横に走っているのでディフェンスを崩せず、前半は1点、33分から44分の間に7点をとって意欲を見せたが、個人技にたよりすぎている。（岡村）

中央大附属高 15（4—7、8—5、1—0、2—0）12 若狭高

大型同士の対戦、前半中大はミドルが決らず苦しんだのに対し、若狭は杉本がきりこんで作るチャンスを奥野・松本が生かして7—4とリード。後半中附は若狭の奥野・松本をマン・ツウマンで当り若狭のコンビが崩れる間に加点し31分には7—7と追いついがた、また若狭につきはなされたが49分40秒にやっと同点にもちこみ、延長戦になり、3点を加点して辛勝した。若狭の斗志がたたえられる試合であった。（奥村）

下関・中大ともに姿消す

▽準々決勝

枚方高 16（9—2、7—9）11 下関中央工高

得	【枚方】		【下関】	得
0	藤井	GK	大塚	0
		GK	杉谷	0
3	川原	FP	小山	0
4	和気	FP	中野	7
2	入江	FP	通山	0
3	松本	FP	中川	1
1	長栄	FP	吉村	0
3	岡野	FP	稲葉	1
0	重村	FP	藤本	0
0	江崎	FP	今田	0
		FP	久富	0
		FP	飯山	2
(2)		7MT		11 (2)

（審・岡前 中西）

下関は前半、守っては入江、岡野をマンツウマンで、攻めてもジックリボールを廻す消極策。しかも時折迎えるチャンスもシュートが雑で決らず、枚方GKの負傷を援けていた。一方枚方はマンツウマンによる守備の乱れをつき、カットインから着々と加点した。

後半に入ってもこのペースは崩れず、下関が追いあげはじめたのは40分をすぎてからであった。このあと中野の活躍で、追ったが、枚方も加点し、やっと5点差につめたにすぎなかった。

自己のペースで試合をすすめた枚方の快勝、下関は最後の10分になってやっと本来の試合ぶりを見せただけであった。（藤本）

加納高 16（6—5, 10—3）8 和歌山商

	【加納】	得	【和商】	得
GK	守屋	0	長谷川	0
GK	佐藤	0	西岡	0
FP	柳原	0	苧野	0
FP	大畑	0	宮村	0
FP	松原	0	石谷	0
FP	堀	1	藤田	0
FP	脇若	10	志賀	3
FP	神山	4	中野	3
FP	坪内	1	谷口	2
FP	杉山	0	日高	0
FP	笹本	0	川端	0
FP	長縄	0	中村	0

（審・岡村 中西）

8（0） 7MT （2）16

両チームともゴール前のたての走りに鋭さがなく、特に後半の和商はゴール前のツメの甘さがめだち、シュートもGKの正面をつき点差を開かれた。加納は脇若、神山のジャンプシュートを良く決めさせ、大差をつけた。（梅野）

松蔭高 8（5—3, 3—4）7 佐世保北高

両チームとも防御陣のあたりが激しく、シュートチャンスは少なかった。松蔭は川畑の好リードで少ないチャンスを生かして、前半をリード。後半佐世保は30分に追いついたが、すぐに松蔭は3点を連取し、辛くも逃げきった。（佐野）

	【松蔭】	得	【佐北】	得
GK	加藤	0	釘田	0
GK	山田	0	村田	0
FP	若杉	1	山高	1
FP	川畑	1	力武	1
FP	伊藤	0	吉田	3
FP	山内	0	大庭	0
FP	横井	3	若松	1
FP	山本	2	明石	1
FP	神野	0	山里	0
FP	大岩	0	木村	0
FP	石黒	1	関	0
FP	石川	0	佐藤	0

（審・河本 太田）

7（3） （0）8

新居浜工 13（6—8, 7—4）12 中大附高

	【中附】	得	【新工】	得
GK	紫田	0	蝶野	0
GK	田村	0	塩田	0
FP	清水	1	城賀	1
FP	上村	2	神野	0
FP	大熊	3	吉本	0
FP	小川	0	曽我部	1
FP	松下	2	杉山	2
FP	佐野	1	喜井	9
FP	佐藤	3	矢野	0
FP	小林	0	加藤	0
FP	宮川	0	大谷	0
FP	青山	0	土井	0

（審・佐野 日野）

13（2） 7MT （0）12

新居浜のスタートは悪く、20分頃まではミスを得点に結びつけられ、2—7と5点差になった。この間、中附はポストとミドルをおりまぜ多彩な攻撃ぶり。20分をすぎる頃から、新居浜は喜井のスタンディングシュートが決まりはじめ、後半もこのペースで、喜井が良いところでミドルを確実に決め34分には同点、44分に再度同点とし、46分にはじめてリードを奪った。この間の中附の攻撃は実に雑で、一人一人がコンビを考えずに力まかせに打ち、これが敗因となった。この一つには、新居浜がじっくり攻め、ボールをほとんど支配下においていて、中附の焦りを語ったこともあげられようが、もう少し、じっくり攻めていれば、つきはなすこともできたであろう47分に再び中附が12—12の同点にしたあと、48分15秒に杉山がたおれこんでの決勝点をあげ、熱戦の幕を閉じた。

この試合、チャンスのシュートをことごとく決め、よく9点をあげた新居浜の喜井の活躍はいうまでもないが、喜井のシュートチャンスをブロック・パスなどで作りだしていた神野・杉山らの活躍も見逃すことはできない。喜井を中心にしたチームワークの勝利ということが云えよう。（藤本）

新居浜・枚方が決勝へ

▽準決勝

枚方高 10（3—3, 7—5）8 加納高

	【加納】	得	【枚方】	得
GK	守屋	0	藤井	0
GK	佐藤	0		
FP	柳原	0	川原	1
FP	大畑	0	和気	0
FP	松原	0	入江	3
FP	堀	0	松本	4
FP	脇若	8	長栄	0
FP	神山	0	岡野	2
FP	坪内	0	重村	0
FP	杉山	0	江崎	0
FP	笹本	0		
FP	長縄	0		

（審・河本 大塚）

10（0） 7MT （0）8

遅攻同士の同型チームの対戦。前半は互に機を見てシュートをろつが決定打なく、3—3のまま終る。

後半に入り、加納はフリースローからラッキな得点で2点リードしたが、41分枚方は同点に追いつき、ここからは攻守とも動きが良くなり、脇若の動きを封じ、勝った。（大塚）

新居浜工 12（4—4, 5—5 : 0—0, 1—1 : 1—0, 1—1）11 松蔭高

	【松蔭】	得	【新居】	得
GK	加藤	0	蝶野	0
GK	山田	0	塩田	0
FP	若杉	2	城賀	0
FP	川畑	3	神野	1
FP	伊藤	0	吉本	1
FP	山内	0	曽我部	0
FP	横井	3	杉山	1
FP	山本	2	喜井	9
FP	神野	0	矢野	0
FP	大岩	0	加藤	0
FP	石黒	1	大谷	0
FP	石川	0	土井	0

（審・日野 森）

12（1） 7MT （2）11

準決勝とあって両チームとも固くなった。松蔭は新居浜の喜井を完全にマークした。また新居浜も若杉、川畑を良くマークし、二人の放つシュートもGKの好守で良く守り、互格の展開となった。

後半松蔭はペースを握ったかに見えたが、得点がその後続かず、喜井に5点を許し、延長戦にもつれこんだ。

延長後は新居浜のペースであったが、松蔭ものってを決め、第二

延長、ここで新居浜は喜井のフリースローからのシュートでつき放し、決勝進出をした。（森）

新居浜工逃げきる

▽決勝

新居浜工 9（5－4 4－4）8 枚方高

【枚方】	得
GK 藤井	
FP 川原	1
和気	0
入江	3
松本	3
長栄	0
岡野	1
重羽	0
江崎	0

（審・日野 森）

【新浜】	得
GK 蝶野	0
塩田	0
FP 城賀	2
神野	2
吉本	1
曽我部	1
杉山	2
喜井	1
矢部	0
加藤	0
大谷	0
土井	0

（1）7MT（2）8

両チームとも静かななかにも斗志を秘め、セットオフェンスを中心にじっくりと試合を進めた。枚方はサウスポー岡野がマンツウマンで動きを封じられ、入江、松本の個人技で得点をあげた。

一方新居浜はゴール前で速いパスを廻すことと、速攻から得点をあげ5－4とリード。

後半開始直後、枚方は松本で同点としたが、優勝戦を意識してか固くなり、両チームとも決定的チャンスを逃がした。35分に新居浜が城賀で6－5、40分枚方は岡野の7MTで追いつき、42分30秒には8－7とリードを奪った。しかし新居浜も44分杉山が同点、45分に得た7MTを喜井が決め、これが決勝点となった。40分から45分にかけての両チームの攻防は見応えのあるものであった。

枚方は終了直前の2本の速攻からのノーマークを2本とも落したのが命とりとなり、新居浜の初優勝を許した。

女子

まずは順当な結果

▽一回戦

大谷高（大阪）11（5－2 6－2）4 都城泉丘高（宮崎）

スタートは両チームとも動きが鈍かったが、その後は大谷の一方的ペース。泉ケ丘は散発的なチャンスしかものにできなかった。（石川）

深谷女子高（埼玉）17（9－4 8－5）9 真備高（岡山）

基礎プレーとコンビの整った深谷の順当勝ち。真備は個人プレーに頼りすぎた。

大垣南高（岐阜）6（1－3 5－1）4 昭和学院（千葉）

大垣は篭橋を中心によくまとまり、チームワークの勝利。昭和はきめの細かいプレーがほしい。それがあれば速攻チャンスも生かせたであろう。（上田）

生駒高（奈良）11（2－4 6－4 1－1 2－1）10 小松市立女高（石川）

前半は小松のペース。後半生駒はよく攻め、一時はリードしたが追いつかれ延長にもつれこむ。延長後もシーソーゲームであったが生駒の鍛冶の終了20秒前の得点が決勝点となった。（鈴木）

神埼農高（佐賀）13（5－2 8－1）3 高松女商（香川）

神埼は岸川を中心によく動き着々加点をし、楽にプレーをすすめ楽勝した。（鈴木）

財部高（鹿児島）4（3－0 1－3）3 高知西高（高知）

前半は速攻を中心として財部ペース、後半高知は36分に追いついたが、36分50秒に中西が決め、つきはなされた。（鈴木）

佼成学園（東京）9（6－3 3－2）5 室蘭商高（北海道）

前半速攻に勝る佼成が3点のリード、後半に入ると室蘭は26分に1点差までつめたが、焦りが手伝ってか、シュートミスが多く、佼成にふりきられた。（金原）

名古屋女商（愛知）4（1－2 3－1）3 福井商高（福井）

両チームとも攻防に研究の余地あり、後半はややまとまったが、前半はひどい凡戦。（中西）

水海道二高（茨城）13（8－4 5－3）7 涌谷高（宮城）

好試合。水海道の黒川、谷沢竜富山のコンビプレーが冴え、加点した。両チームとも古豪チームにふさわしい展開であった。（新村）

山陽女子高（広島）11（3－1 8－2）3 津女子高（三重）

前半は凡戦。後半はロングと速攻による山陽ペース。津は疲労のため思う様に戦えなかった。（新村）

夙川学院（兵庫）5（3－0 2－1）1 花巻南高（岩手）

夙川の堅守に花巻は拙攻をくり返し終る。夙川は都会チームらしく洗錬されたチームプレーを見せた。（新村）

高岡女高（富山）7（3－3 4－1）4 平塚江南（神奈川）

前半は一進一退。29分に7MT崩れを得点し、同点にしたあとの高岡は良く走り、これを吉田が得点し、快勝した。（石川）

島原高（長崎）15（7－3 8－5）8 山梨高（山梨）

島原は良く走り、速攻、ポストともに良く、着々加点。山梨はボールは良く廻ったが今一歩。（日野）

石川高（福島）10（4－2 6－1）3 高蔵女商（愛知）

体力的に優れた福島が水野、遠藤が他の選手を良く使い楽勝した。（山田）

土居高（愛媛）16（7－1 9－2）3 松江家政商（島根）

初出場同士のため、スタートは固くなったが、しだいに土居は実力を示し、全くよせつけず快勝した。（河本）

別府青山高（大分）13（5－3 8－6）9 前橋市女高（群馬）

身長の差が得点差となる。別府は西岡と中野のロングが決り、前

橋は守備の壁に苦しんだ。（青木）

徳山高（山口）19（10−1、9−4）5 京都女高（京都）

徳山は京女のセットプレーをカット速攻で加点し大勝。徳山の田中のミドルシュートが光る。（高橋）

小諸商高（長野）11（3−4、5−4、1−0、2−2）10 小禄高（沖縄）

終始シーソーゲーム。しかし両チームとも基礎技術が未熟のためムダなシュートが多かった。（山田）

熊本市立高（熊本）19（11−4、8−5）9 枚方高（大阪）

スタートから熊本は速攻を確実にものにし、自己のペースにもちこみ、楽勝した。（青木）

高島商（滋賀）9（4−1、5−3）4 池田高（徳島）

高島は単調ながら、中央のカットインプレーで加点。池田はロングが雑で点差が開いた。（砂長）

新居浜、神埼、城北快勝!

▽2回戦

新居浜市商（愛媛）7（2−1、5−2）3 大谷高

30分をすぎてからの攻防で試合は決った。32分から新居浜は5点をあげ、振りきった。（野村）

深谷女高 12（9−5、3−1）6 青森西高（青森）

両チームと特色を生かした攻撃に研究の余地。ポスト・フェイントに一日の長のある深谷の勝ち。チーム2年目の青森の健斗も立派であった。（中沢）

大垣南高 5（2−2、3−1）3 生駒高

両チームとも努力が必要。一工夫あれば両チームとものびる。チャンスを生かしていない。（中沢）

神埼農高 11（4−4、7−1）5 粉河高（和歌山）

前半はミス多く接戦。後半は神埼の速攻で点差がついた。（島田）

財部高 7（2−1、5−4）5 八幡商高（滋賀）

動きの鈍い試合。走り勝った財部の勝ち。八幡は横、財部は縦と対称的な動きであった。（中沢）

名古屋女商 7（4−5、3−1）6 佼成学園

前半両チームともミスが多かった。後半名女はやや良くなり、39分に決勝点をあげ辛勝。（梅野）

水海道二高 8（1−4、7−1）5 筑紫女学園（福岡）

前半は筑紫ペースで4−1。後半、水海道は富山のロングで水をあけ楽勝。（今村）

山陽女高 8（3−2、5−2）4 秋田和洋女（秋田）

両チームとも固くなっていたが積極的だった山陽が勝った。山陽のシュート力が秋田をうわまわった。和洋の今後に期待。（島田）

夙川学院 8（4−2、4−2）4 桜水商高（東京）

両チームとも速攻を許さなかった。僅かにシュート力に勝る夙川が勝利を握った。

高岡女子商 14（10−1、4−1）2 益田高（岐阜）

高岡の全く一方的な試合。益田はチャンスがあってもシュート力がなかった。（梅田）

島原農高 6（2−1、4−4）5 石川高

両チームともはげしいつぶしあいで、得点は少なかった。はげしい攻防の結果、島原が辛勝。（中塚）

土居高 6（2−2、4−2）4 柏崎常盤高（新潟）

前半は柏崎が先手、土居はノータイムフリースローを決め、2−20後半は土居のペース。（大塚）

静岡城北高（静岡）13（4−3、9−1）4 別府青山高

前半は別府セット、城北速攻の展開。後半は城北が攻めまくった。（梅田）

小諸商高 13（6−5、7−6）11 徳山高

一進一退のゲーム展開。森本のシュート力をもつ小諸が徳山をふりきった。（金原）

熊本市立高 11（5−2、6−1）3 米沢女子高（山形）

12分まで両チーム無得点。あとは熊本の一方的試合。米沢は基礎技術の習熟の要あり。（門別）

栃木女高（栃木）10（3−0、7−1）1 高島高

高島はチャンスはあったが栃女のGKの好守にあり、その上速攻を出されて万事窮した。（中塚）

九州勢好調に勝ち進む

▽三回戦

新居浜市商 6（3−2、3−2）4 深谷女子高

深谷は新居浜の当りに攻めあぐんだ。またミスも多かった。攻撃に一工夫あれば多くの得点をあげたであろう。新居浜は斗志あるプレーを見せものの、再度7MTを落すなどして僅少差になった。（今村）

神埼農高 11（7−4、4−6）10 大垣南高

大垣は中島、篭崎のシュート力を生かし善戦、神埼は速攻、ロングで攻撃し、勝利を得た。（山田）

名古屋女商 9（6−2、3−2）4 財部高

暑さのためか凡戦。名女GKの恐さしらずのプレーが味方を激励し、これが勝利につながった。財部はシュート力が弱い。（山田）

水海道二高 10（7−3、3−4）7 山陽女子高

スタートは両チームともはげしい攻防。8分から山陽の出足のとまったところをつき14分までに6点連取。後半水海道の疲れの出たところを追いあげたが、動きの差が得点差となった。（石川）

夙川学院 7（3−3、4−2）5 高岡女子高

スタートは高岡好調。10分頃か

ら夙川ペースになり、前半3—3 28分までに夙川は3点をとり、大勢をきめた。夙川の葉、日原のコンビが目だった。（太田）

島原農高 9（3—4 3—2 1—0 2—0）6 土居高

土居が主導権を握った試合であったが、島原もよく粘り延長戦にもちこむ。延長戦後は島原ペースポスト、ロングを決めた。（中西）

静岡城北高 12（7—4 5—4）8 小諸商高

スタートはシーソーゲーム。10分をすぎるころから小諸のシュートミスがめだつ。28分に城北山本の負傷欠場で城北のペースが乱れた。これを機会に小諸の反撃が期待されたが及ばなかった。生徒の真剣なプレーに対し、城北ベンチの言動は常軌を逸している。猛省を望む。（新村）

熊本市立高 5（5—2 0—1）3 栃木女子高

前半熊本は速攻でリード、栃木は熊本の強い当りを破れず、苦戦前半の差が差になる。（日野）

強チーム勝ち進む

▽準々決勝

新居浜市商 11（6—5 5—2）7 神埼農高

新居浜の走り勝ち。神埼は前半は良く走り、多少遅れがちではあったが、守備のあいだから打つ本

得	【新浜】		【神埼】	得
0	岩崎	GK	柳川	0
0	鈴木	GK	中村	0
1	出雲	FP（審・門前・大塚）	石井	0
0	飯尾		本告	3
0	林		平井	0
5	曽我部		岸川	2
3	森実		荒木	2
0	磯部		内川	0
1	岡本		宮地	0
1	中岡		平石	0
0	中津		片江	0
0	白石		江島	0
11（1）		7MT		（0）7

告のロングシュートなどで良く対抗していた。このシュートにもう少し確度があれば、もっと新居浜を苦しめたであろう。互格の戦いぶりを示していただけに、後半に入っての新居浜の22分森実、24分出雲の連続ゴールで8—5とされたのは痛かった。後半になり、神埼は連日の疲労がでたのか、前半ほどの動きができず、敗れた。（大塚）

水海道二高 15（6—4 9—5）9 名古屋女商

得	【名女】		【水海】	得
0	今枝	GK	渡辺	0
0	小久保	GK	小田	0
1	山田	FP（審・島田・森）	黒川	2
0	久野		谷沢竜	2
0	竹内		谷沢節	2
0	林		於保	0
3	田中		富山	7
0	今井		皆葉	2
5	中山		飯田	0
0	竹内		結城	0
0	今浦		笹沼	0
0	小田			
9（2）				（0）15

両チームとも炎天下連日の試合で疲労の色が濃かった。水海道はスタートから快調にリードを奪い名女が水海道の厚く、堅い守備をかいくぐり、あげた得点を尻眼に加点した。名女はよくゴール前で動きはしたが、水海道の守備をゆさぶるだけのものはなく苦戦した。

後半に入ると疲労の見られる名女に対し、水海道は体力にものをいわせ、33分以後、7点をあげ快勝した。この試合黙々と加点する水海道、ベンチの口汚ない名女とチームカラーもきわめて対照的であった。ベンチが興奮することが果して戦局を好転させることになるであろうか。しかも、その興奮が選手を激励する方向になるならともかく、口汚なくののしる方向に向っているのだから論外であろう。（藤本）

島原農高 6（5—3 1—2）5 夙川学院

得	【夙川】		【島原】	得
0	西村	GK	森山	0
0	宮武	GK	田浦	0
0	大野	FP（審・門前・大塚）	船木	0
2	日原		原川	1
0	岸		平	1
0	村上		森本	3
1	葉		吉田	0
2	柏原		草野	0
0	有川		坂本千	0
0	席定		横田	1
0	太田		坂本清	0
0	上岡		西山	0
5（0）		7MT		（0）6

前半の夙川はダブルポストから攻撃を試みてはいたが、横への動きが多く、ここからインターセプトを生み、また島原のGKの好守からの球出しで、次々と速攻を決められた。10分をすぎるころから島原にミスが重なり、夙川はこれを柏原がきめ、5—3で島原。

後半になり、試合は夙川ペースで続いたが、島原は26分30秒に追加点をあげ、6—3とした。夙川はチャンスはあるが、これが点に結びつかず、苦労した、ようやく31分32分に日原が連取し、6—5残り8分にかけられた。

この間両チームとも数度のチャンスをもちながら、決定力を欠き得点をあげられず、島原が辛勝する結果となった。連日の試合の疲労がありながら、それらしい様子を見せず、最後まで、全力で走りあった両チームの戦いぶりには好感がもてた。（藤本）

静岡城北高 10（7—4 3—2）6 熊本市立高

得	【城北】		【熊本】	得
0	仁藤	GK	松野	0
0	山下	GK	清水	0
1	木内	FP（審・奥村・砂長）	古閑	0
0	井上		上手原	3
1	築地信		金水	3
0	藪田		出田	0
1	築地咲		益田	0
0	高須		柿原	0
7	山本		矢田	0
0	鈴木		小北	0
0	池野		庄司	0
0	松山		黒田	0
10（1）		7MT		（3）6

城北はたちあがり、先取点を許したものの、その後は速攻および山本のロングで加点し、7分から16分まで、ほとんど1分置きに得点し点差を拡げた。

後半開始直後、熊本は7MTを得たが、城北GK仁藤の好守にこれをはばまれ、その逆襲を決められ、傷口を大きくした。熊本はそのまま押しきった。城北はゲッター山本の2度に亘る退場を生かす

ハンドボールの子

松原匡男（日本歌人クラブ会員）

青春をハンドボールに明け暮るる
　子は斗志に光る眼をもつ

それぞれの母校の栄誉背に負いて
　グランドせましとハンドボールの子ら

ロング打て速攻せよとグランドに
　子の動き追う拳（こぶし）固めて

若き生命（いのち）をハンドボールに
　賭けし子は眦裂きて攻め守りつつ

凄烈の決斗ぞこれキーパーの
　七米スローにハタと身構ふ

いまはただ祈るほかなきタイム流る
　白熱の試合五対五のまま

あと五分叫喚叱咤乱れとび
　ハンドボールの熱戦は沸く

十年間連続優勝いまや成る
　跳躍の子のシュート決まりて

会心のシュート決めたる子の笑顔
　歯のみ白きがつよく目に沁む

青春の血は迸る勝ちて泣き
　敗れては泣くハンドボールの子ら

ことができなかった。城北GKの好守が光った。（大塚）

新居浜・城北敗る

▽準決勝

水海道二高 8（4－1、4－3）4 新居浜市高

【水二】	得
GK 渡辺	0
GK 小田	0
FP 黒川	1
谷沢竜	3
谷沢節	0
於保	0
富山	3
皆葉	1
飯田	0
結城	0
笹沼	0

【新浜】	得
GK 岩崎	0
GK 鈴木	0
FP 出雲	0
飯尾	0
林	0
曽我部	1
森実	2
磯部	0
岡本	1
中岡	0
中津	0
白石	0

（審・山田、新村）

8（1）7MT（0）4

雨のあい間の試合、どちらもダブルポストの攻撃。新居浜は固くなったが、水海道は拡がりをもった大きな展開。後半になって新居浜は水海道のディフェンスが沈み気味なのをついてロングをうったが遅かった。（山田）

島原農高 6（3－3、3－0）5 静岡城北高

【城北】	得
GK 仁藤	0
GK 山下	0
FP 木内	3
井上	0
築地信	0
藪田	2
築地咲	0
高須	0
山本	0
鈴木	0
池野	0
松山	0

【島原】	得
GK 森山	0
GK 田浦	0
FP 船木	0
原川	1
平	0
森本	3
吉田	2
草野	0
坂本千	0
横田	0
坂本清	0
西山	0

（審・砂長、岡前）

6（3）7MT（0）5

スタートは城北が木内で得点を重ねた。島原はこの間ノーマークチャンスを生かせなかった。

後半になると島原はシャープな動きを見せはじめ、シュートも良く決り、30分には6－5とリード残る10分間、城北は焦りが見られ動きが単調になり、島原の後半の精神力の前に破れた。（岡前）

水海道辛くも勝つ

水海道二高 6（4－2、2－3）5 島原農高

【島原】	得
GK 森山	0
GK 田浦	0
FP 船木	0
原川	2
平	1
森本	1
吉田	0
草野	0
坂本千	0
横田	1
坂本清	0
西山	0

【水二】	得
GK 渡辺	0
GK 小田	0
FP 黒川	0
谷沢竜	3
谷沢節	0
於保	0
富山	3
皆葉	0
飯田	0
結城	0
笹沼	0

（審・岡前、佐野）

6（0）7MT（1）5

水海道は2：4攻撃から大きくボールを廻し、ロング・サイド攻撃、島原は原川を中心に全員が早いボール廻しからよく走るという対照的攻撃。水海道のシュート力が島原の走りに勝って前半は4－3。両チームとも優勝を意識してか、かなり緊張気味で固さがあった。その固さからミスが続出した後半に入ると水海道は24分に6－4とし、そのあとは優勝を意識しすぎて、動きがとまったが、ボール保持時間が長く、27分以降13分間両チームとも得点がなく、水海道が辛勝した。

新居浜工2敗　せまいコートに泣く

ソウルで日韓高校交流

第3回日韓高校交歓スポーツ競技会は8月19日から21日までソウルでハンドボール、陸上など8競技を行なった。両国高校生によるハンドボールの交流は通算5度目日本代表として8月彦根で行なわれた第21回全日本高校選手権優勝校・新居浜工（愛媛）が遠征、韓国高校界最上位2校と2試合を交えた。新居浜工は、全日本高校後の疲れとルール解釈などのちがいから苦戦、実力を出し切れぬまま2敗をきっした。これで通算成績は日本側の18戦7勝9敗2分となったがこのうち7人制では14戦4勝9敗1分と日本側は大きく水をあけられた。

▼第1戦（8月19日・奨忠体育館）

東亜高（韓国）16（6－1 / 10－3）4 新居浜工（愛媛）

○…熱気につつまれた館内の雰囲気にのまれて新居浜工は自分のペースがつかめず、終始東亜が主導権を握っていた。コートが31m×18mという狭さで、直線的な速攻を得意とする新居浜工はなす術がなく、4得点のうちフィールド・ゴールはわずかに1点、あとは7MTによるものだった。

▼第2戦（8月21日・奨忠体育館）

麻浦高（韓国）16（8－4 / 8－10）14 新居浜工

○…韓国側の競技法とコートになれた新居浜工は気力をこめての試合ぶりだったが、麻浦も巧みなセットプレーから得点をあげ先行した。後半、新居浜工の追いこみはすばらしく、しばしば逆転機をつかんだがあと一歩のところで逸し惜しくも勝利をのがした。

○…新居浜工チームは8月22日午後9時26分着の日航機で帰国。千葉秀雄盛督、高橋清和コーチ（いずれも新居浜工教諭）は羽田空港で次のように語った。

『連敗したことは残念だ。しかし、両国の実力差は得点にみられるほどの開きはなく、すべての条件さえ整っていればと悔やまれる特にコートの狭さにはたてる策もなく使用球や審判法にもとまどった。韓国側は7月の大学交流における日本の審判員のまずさをさかんに云っていたが、同じ国際ルールなのに解釈のちがいがありすぎる。アジアの判定統一が必要ではないか。2試合とも八千近い観衆が集り熱気にあふれていた。韓国ナショナルの指導に西ドイツからコーチが来ているということであった』※次号に日韓高校交流を特集の予定です。

新居浜工遠征メンバー

監　督　千葉　秀雄（39）
コーチ　高橋　清和（31）
選　手　喜井　美雄　3年
塩田　正信　2年
蝶野　秋夫　3年
城賀本　巧　2年
神野　公明　2年
吉本　文年　3年
曽我部和夫　3年
杉山日出夫　3年
土井　利彦　1年
矢野　充彦　2年
加藤　和彦　2年
大谷　公重　2年

"ミュンヘン"の参加国審議

～注目のIHF総会近ずく～

日本の強化策にも影響

2年ごとに開かれる国際ハンドボール連盟（IHF）の第13回総会は9月18日から3日間スペインのマドリッドで開かれる。

この総会が例年以上に注目をあびているのは47年8月のミュンヘンオリンピック出場国の決定～予選方法の協議～という大課題があるからだ。問題の行方を探ってみよう。なお、総会には日本から渡辺和美副会長と河内鋭雄海外駐在理事（在イタリア）が出席する。

2年後にせまったミュンヘンオリンピックのハンドボール競技はさきの国際オリンピック委員会（IOC）総会で男子16カ国によって行なわれることが正式に決まった。

36年ぶりに訪れたこの好機に16の栄光の座を目ざし日本をはじめ各国の熱の入れかたはすさまじいばかりだが、IHFは、かねてからの申し合せどおり、今春フランスで開いた第7回世界7人制選手権の上位8カ国に、まず最初の"出場権"を与えることになった。

すなわちルーマニア、東ドイツ、ユーゴー、デンマーク、西ドイツ、スウェーデン、チェコ、ハンガリーの8カ国である。

日本は予選ラウンドで、3位となったユーゴと引き分けながら惜しくもベストエイト入りを逸し、この選にもれたことは周知のとおりで、IHFがいかにして次の（残りの）8カ国を選抜するかが最大関心事となっている。

うすれた？日本の無条件出場

IHF筋の日本に対する評価は高く、本場ヨーロッパから遠隔の地であり乍ら過去4回も世界選手権に参加したなどの実績も手伝って、世界選手権後いちぢは「日本にアジア大陸を代表した出場権を与える」といった情報がかなり有力に伝えられた。

しかし、一方に今春の世界選手権出場国を厚遇しすぎるという意見も強く、4月以降の情勢は、日本が楽観して待つようなものではなくなって来た。

日本へ無条件に出場権を与えるという案がまったく立ち消えになったわけではないが、大方は「なんらかの形で予選が行なわれるだろう」とみている。

となれば、どのような予選会が義務づけられるだろうか。

消息筋は

一、アジア地域予選
一、アジア・アメリカ地域予選
一、全世界を一区とした予選

の三つにしぼられる、という。

全世界一区の予選案も

アジア地域予選の有資格者は日本と韓国、それにイスラエルら西アジア諸国の動向がからむ。

韓国球界筋でも、この方法を望んでいると伝えられ、7月来日した同国・洪淳泰副会長も「そうなれば東京とソウルで一試合づつ…」とかなり具体的な意見を云い残している。

アジア・アメリカ地域予選というのは、現在の実力的な国際情勢からヨーロッパ側が提案する可能性を残している。

世界選手権後、日本の関係者が取材した範囲では「アメリカ、アイスランドなどで1カ国の代表」という案がIHF筋にあったという。アメリカ大陸の有力国となるとアメリカ、カナダぐらいのもので日本の優位は動かせないが、アイスランドが加るようだと手強い。

今春の対戦では19―18で勝ったものの油断はできまい。

全世界一区の予選会を主唱しているのはスペインだ。

同協会は今総会にその具体的構想を議案として提出している。

それによると、すでに出場権を得た8カ国以外のすべての国を一堂に集めて予選会（プレ・オリンピックトーナメント）を開き、そのベストエイトに出場権を与えるというもの。開催地として自国のマドリッドが名乗りをあげ、参加国を4グループに分けて各上位2カ国を選抜、期日は47年2月または3月と念の入った提案で、しかも日本など遠い国にはスペイン協会が30パーセント程度の旅費負担をしてもよいという徹底ぶりである。この案が支持されるようだとソビエト、ポーランド、スイス、フランス、オランダ、スペインなどの強力国が顔を揃えることになり、組み合せが微妙な作用をしよう。

今春以来、諸説の乱れとんだこの問題も9月18日からのIHF総会では断を下されるわけで、それによって斯界の"強化方向"も変わってくるのだがルーマニアあたりはスペイン案に難色を示し、各大陸からチームを参加させるべきだとしており、成り行きを見まもりたい。

台中県教員
攻守に〝激しさ〟不足
～初の日本・台湾親善試合～

結成間もない台湾球界から来日した「台中県教師」チーム（王如庚団長ら19名）を迎えての親善試合は8月16日午前11時30分から三重県・四日市市体育館で三重教員団と行われた。

三重教員団（日本）31（11―9、20―7）16 台中県教師手球隊（台湾）

【三重】	得			得	【台中】
生川	0	GK	GK	0	商澄渓
服部	3	FP	FP	1	蔡炳坤
平埜	3			3	楊正雄
橋本	4			3	會世永
中根	8			0	李丁春
秋山	9			1	林建煉
青木	0			0	陳清坤
奥口	2			0	陳国沢
小田	0			0	李孫憲
鈴木好	1			2	陳煙慶
玉野	1			6	商洋輔
	31	（1）	7MT	（0）	16

（審・嶋田 清水）

▽交代【三重】GK鈴木政、FP福本、倉田、江口（いずれも得0）

○……水色のユニホームに赤青のふちどり、揃いのソックス。いかにも軽快な印象の台中県教師選抜チーム。台湾から初のお客様だ。

協会が正式発足して2ケ月、日本のレベルとはまだまだ格段の差があるのもしかたない。

○……試合は初めから一方的。三重は立ちあがり〝国際試合〟にちょっと緊張、7分5―3と迫られるなどしたがその後は当りのない台湾ディフェンスの真正面からシュートを決めて、20分15―5、勝負はここでメドがついた。

台中県は、バスケットボールの出身者が多く、相手ディフェンス前のローリングやドリブルワークはなかなか巧い。特に蔡がトリッキーなパスを見せて得点機もかなりあったのだが、肝心のシュートがあまりにも弱い。

○……力（パワー）不足、スピード不足はディフェンス面でいっそう感じる。〝ハンドボールの激しさ〟がまだ身についていないようだ。

後半になって、三重がペースを落とし、台湾はようやくゴールを決めはじめたのだが今度は疲れがのぞいた。むし暑さ、しかも体育館での試合は初めての選手が多く体調は不充分。

○……引卒の宋丙堂氏（早大OB）は前日「日本チームから5点とれるかなあ」と云っていたが、ともかく16点。上出来だ。むしろ短時日でここまでまとめあがったことを賞すべきかも知れない。台湾球界の現在の主力は小学生。彼らが成長したならばいっそう期待は大きなものになる。

なお、台湾チームとの親善試合は3試合が予定されていたが、来日が遅れたため1試合だけに終った。（杉山）

台湾協会副理事長
宋丙堂氏に聞く

――台湾協会は正式に発足されたか

宋副理事長　五年ほど前からの準備期間を経て今年の6月12日に設立した。日本の体協にあたる全国体育総会にも加盟が認められたし国内オリンピック委員会（NOC）のメンバーにも加った。

――普及状態は

宋　小学校、教員への普及は順調で、大学、高校も伸びている。地域的には台北、台中が中心だ。

――協会の役員は

宋　陳金樹氏を理事長に推せんし、私と温展洪氏が副理事長として補佐をつとめている。日本の後援で国際ハンドボール連盟（IHF）の一員になりたいと思う――

今回来日したチームは

宋　5月の教師選手権で優勝したチームだ。来日前一週間の合宿を行った。日本のナショナルチームが3月、世界選手権の帰途立ち寄ってくれるなどしたためレベルも着実に上っていると思う。実力的には台北市高校大会で優勝した師範大附属高が国内ではいちばん強いだろう。

――今後の交流について

宋　日本にはすべての面で協力をあおがねばなるまい。審判技術ルール解釈などのほか、技術フィルムなども欲しい。高校、小学校の親善試合も早く実現したいし、大学も台湾のレベルに合ったチームを近い将来招きたいと思う。

――アジア地域のハンドボールについて

宋　韓国が提唱していると伝えられるアジア連盟の設立には賛成だ。私どものルートでホンコンに近く普及の芽を蒔きたい。ここで成功すればシンガポール、マレーシャなどへの伝達は容易だと思う

――日本のハンドボール界について

宋　私が早大でプレーをしていた頃（注・昭和13～15年）は、関東学生が中心でそれも4校か5校だった。すべての面で大きな飛躍をとげている。

我々も早く日本に追いつきたい

（8月16日四日市市で、文責・編集部）

「全国中学指導者講習会」開く

その成果が各方面から注目され れじ て申しこんだ43名と地元三重から集った25名が受講、第1日（16日）は文部省・梅本二郎教科調査官の「改訂要旨説明」にはじまっていた初の「全国中学校指導者講習会」は日本協会主催、文部省、三重県教育委員会後援、全日本教職員連盟主管で8月16、17日の両日三重県・四日市市体育館で開かれた。昭和47年度から「中学校指導要領」へハンドボールの復活が決まり、教材としてのハンドボールをいかに推進するか研究・協議する態勢がととのえはじめられているが。

その最初の段階として全国指導者に対してとりあえず具体的な指導法を解説することになり、今回の講習会開催へこぎつけたものだ

全国各都道府県教育委員会を通

て「審判について」「中学校ハンドボール部員の体力について」「段階的指導方法について」などの講議と「個人的技能について」の実技指導が行われた。

第2日（17日）は、実技が中心で「集団的技能について」「ゲームと審判について」それぞれ指導され、2日間計15時間の講習をとどこおりなくおえた。

（講習会の全容は追って本誌で詳報の予定です）

埼玉 東京、降し優勝（2度目）

第13回 全日本教職員選手権

第13回全日本教職員選手権は8月14、15、16の3日間、四日市市の緑地公園体育館に全国から28チーム（棄権1）が参加して行なわれた。

競技はほとんど波乱がなく、強豪が順調に勝ち進んだ結果、埼玉教員クと前年優勝の東京教員が決勝を争い、埼玉が後半なかばすぎから一気に勝負を決め、2年ぶり2度目の優勝をとげた。

また1回戦の敗者によるトーナメントは愛知同士の決勝から愛知教員が勝った。

来年の第14回大会は8月下旬、鹿児島県隼人町で開く予定。

▽1回戦

鹿児島教員 31（15―6、16―7）13 新潟教員
三重教員団 29（16―14、13―10）24 滋賀教員
千葉教員 32（12―11、20―12）23 大阪教員ク
栃木教員団 46（25―10、21―9）19 佐賀教員
茨城教員 24（14―8、10―7）15 愛教ク（愛知）
岐阜教員 28（15―12、13―7）19 神奈川教員団
埼玉教員ク 27（17―7、10―8）15 大分教員
静岡教員団 29（17―10、12―2）12 香川教員
沖縄教員 不戦勝 京都教員
和歌山教職員 19（10―8、9―10）18 長崎教員
福井教員 25（14―8、11―10）18 愛知教員
熊本教員団 30（22―7、8―10）17 群馬教員

○……予想どおり和歌山×長崎が白熱した。前半和歌山は速攻を巧く決め15分には9―4と5点差をつけたのだが、長崎もよく盛り返し20分以後大宮の連続5ゴールで逆転（10―9）した。

後半は一進一退をつづけわずかに長崎が先行、21分17―15と試合の主導権を握るかにみえた。しかし和歌山は24分谷口で追いつき、25分塩崎が逆転（18―17）する粘りを見せて元気をとりもどし26分大宮にいちどはタイとされたが、終了30秒前の7MTを鈴木が冷静に決めてサヨナラ勝ちした。

○……このほかの試合は順当な結果で好試合が期待された埼玉×大分も前半こそせりあったが、後半なかばから埼玉の一方的なペースに終った。福井×愛知は前半は七たび同点をくり返したが、後半福井は左右からのゆさぶりでポストプレーを活かし制勝した。

沖縄、ベストエイト入り

▽2回戦

東京教員 36（18―7、18―4）11 鹿児島教員
千葉教員 19（13―3、6―4）7 三重教員
茨城教員 31（19―11、12―8）19 栃木教員団
兵庫スワロー 26（12―12、14―4）16 岐阜教員
埼玉教員 27（15―8、12―5）13 岩手教員
沖縄教員 17（7―13、10―3）16 静岡教員
福井教員 16（7―9、9―6）15 和歌山教員
大阪イーグルス 23（13―8、10―7）15 熊本教員団

○……2連勝を狙う東京教員をはじめスワロー兵庫、埼玉、大阪イーグルスなど優勝候補の地力はさすがだった。

埼玉に挑んだ岩手は上り坂の好チームだが、立ちあがりから完全に埼玉のペース。岩手の甘いディフェンスを高田、北井、結城らが次々について15分7―2、はやばやとサキを決めてしまった。

○……福井×和歌山はもつれた。和歌山の出足はよく10分3―1とはなしたが、福井は田島のミドルとサイド攻撃で一気に態勢を挽回逆に3点差をつけて前半を終った。

後半、福井の走りが鈍ったスキを和歌山はつき15分12―12とタイさらに17分、20分にも追加点をあげて逆転した。ところが、福井はそのあと21分の7MT成功を機に立ち直り島田の巧技で25分15―14と三転、29分には小谷内がダメ押しのゲットを奪い、粘る和歌山を振り切った。好試合だった。

○……沖縄が静岡を降したのも目立った。15分まで1―1という貧打戦から沖縄はようやくエンジンがかかり16分菅間のゴールをきっかけに一気の速攻で得点20分6―2、27分10―2と快調な試合運びを見せてコートサイドを湧かせた

後半、奮起した静岡は、塩崎、寺田らの好プレーで15分10―14と追いあげたが、沖縄は16分新里、18分菅間がゴール。結果的にはこれが効いた。粘る静岡は20分12―17とはなされながら必死の反撃で28分1点差としたのだが沖縄に逃げ切られた。

千葉×三重も前半は接戦を演じ見応えがあったが、後半になると千葉は笠原の活躍を中心に差をつけ、最後は大差となった。

4強、順当に勝進む

▽準々決勝

東京教員 34（21―8、13―3）11 千葉教員

○……前半は千葉がキープ策を採ったため東京はいたずらにボールを追いかけるだけで、わずかにカットから速攻で得点したに留った。

後半、千葉が速攻からの反撃に転じたが相手の厚い守備陣を突き切れず、かえって東京の逆速攻をうけて点差があいた。（岡田）

スワロー兵庫 33（17—15、16—3）18 茨城教員

○……前半兵庫は茨城の甘いディフェンスを狙って北山、畑のロングを主武器に得点、一方的な経過となった。茨城は兵庫守備陣を崩すだけのスピードがなく、しかも個人技が多かったために反撃の芽が生まれず、わずかに後半、兵庫が主力を休ましたスキに得点をあげたに留った。（近藤）

埼玉教員 25（14—6、11—4）10 沖縄教員

○……たくましさを増した沖縄に対して埼玉は慎重にむかった。沖縄の出足はよく10分4—2とリードしたが、埼玉はすぐにはね返し12分から連続9ゴール、後半も攻撃の手を休めず突きはなした。力の差ははっきりしていたが、沖縄の試合ぶりはみごとである。（西川）

大阪イーグルス 29（16—8、13—7）15 福井教員

○……大阪は東、井上らベテランを中心に巧い、球捌きから先制、福井はミドルシュートを活かした攻撃から得点機を狙ったのだが、大阪の要所を逃さぬ確実なプレーに一歩をゆずった。福井は立ちあがりあっさり0—6とされた焦りが最後まで残ってしまった。（大塚）

東京、スワロー兵庫制す

▽準決勝

東京教員 18（12—8、6—6）14 スワロー兵庫

得	【東京】		【兵庫】	得
1	綿貫	GK	上野清	0
		GK	新井	0
6	大西	FP	畑	4
5	藤原	FP	北山	5
1	山口	FP	井上	3
3	高野	FP	木野	2
0	浅野	FP	大原	0
1	小山	FP	幸田	0
1	平岡	FP	泉	0
0	鈴木	FP	浜野	0
0	手島	FP	福田	0
0	高橋	FP	上野赴	0
18（0）		7MT		（0）14

（審・大橋 岡本）

○……前半20分4—4から東京が連続ゴールして6—4、この間兵庫は8分近く無得点、東京のペースにはまりこんだかにみえたが、ハーフタイム間際兵庫は巧みに追いつき好試合となった。

後半はいっそうもつれ15分までは互いに点をとりあって10—10、息が抜けなかった。

○……東京は17分大西、18分藤原で再度2点差をつけたが、兵庫も19分畑、21分北山とすかさず反撃、決め手のないまま進むかにみえたが、東京は23、24分と高野のシャープなプレーで勢いづき、そのあと一気に3点、5点差をつけた。兵庫のわずかな守りの乱れをついた東京の動きはみごとで、終盤だけに兵庫にとってこの負担は大きくはね返すことはできなかった。斗志のあふれた面白い試合といえた。（岡田）

埼玉、第2延長で勝利

埼玉教員 19（10—5、5—10、1—1、1—1、0—0、2—0）17 大阪イーグルス

得	【埼玉】		【大阪】	得
0	高橋	GK	島崎	0
		GK	広川	0
0	金子	FP	東	2
4	高田	FP	井上	2
1	高戸	FP	松尾	1
3	北井	FP	青木	1
0	中島	FP	北岡	1
3	結城	FP	木村	1
5	河住	FP	福井	6
2	上久保	FP	樫塚	2
0	宮岡	FP	河原崎	1
1	永井	FP	市田	0
19（2）		7MT		（0）17

（審・上田 大塚）

○……壮烈な試合だった。埼玉は第2延長後半2分と4分に河住が相手ミスからチャンスをつかんで連続ゴール、80分の激斗にけりをつけた。

試合は、埼玉が巧くすべり出した。前半10分までの小さなせりあいのあと14分上久保のゲットを口火に主導権を握り5点差、巧者を揃える大阪にとってもかなりの負担とみえた。

○……ところが、後半の立ちあがり埼玉は攻守とも動きが鈍く10分までに6点を奪われ11—11に追いつかれてしまった。一進一退から大阪は23分井上が15—14と逆転。

埼玉は24分高田のゴールでタイにしたものの追加点があげられない。

○……延長に入ると大阪ペースで進み、前半同点のあと後半1分東のゲットで17—16、そのまま押し切るかに見えたが残り30秒で埼玉は7MTを得、高田が決めた。

この起死回生の一投が、埼玉を勝利へ誘ったといえるだろう。（杉山）

▽3位決定戦

大阪イーグルス 27（16—8、11—8）16 スワロー兵庫

大阪がこの大会で3位に終ったのは初めてのこと。

▽決勝

埼玉教員 17（11—6、6—7）13 東京教員

得	【埼玉】		【東京】	得
0	高橋	GK	綿貫	0
4	高田	FP	藤原	2
6	北井	FP	山口	2
2	中島	FP	高野	0
2	結城	FP	浅野	0
3	河住	FP	大西	7
0	上久保	FP	小山	2
0	金子	FP	平岡	0
0	高戸	FP	手島	0
		FP	鈴木	0
		FP	高橋	0
17（3）		7MT		（2）13

（審・日野 由利）

○……30秒大西、2分藤原のゲットで先制した東京は、追われながらたえずリードを奪った。

埼玉の動きは必ずしもよくなかったが、北井がマークされながらも10分から10分間に3点を叩き出す活躍で食いつき25分6—6。このあと東京は29分40秒の7MTを大西が決めて前半を終えた。

○……後半3分、埼玉は7—7としたもののどうしても先行できない。しかし20分12—12のあたりから試合のペースは埼玉に移った。この間にみせたGK高橋の好守も見のがせない。

○……いったん調子をつかめば埼玉の攻め口は豊富だ。20分から5分間に7MTを含めて3点をあげ25分に失った1点もすぐとり返し一気に勝負を決めた。（杉山）

敗者戦は愛知が1位

▼コンソレーション・トーナメント（1回戦敗者による競技）

▽1回戦（4試合）

新潟教員 棄権 京都教員

大分教員 23—15 滋賀教員

愛知教員 22—18 大阪教員ク

神奈川教員団 19—16 香川教員

▽2回戦

愛教ク 24—11 新潟教員

長崎教員 23—22 大分教員

愛知教員 38—6 佐賀教員

神奈川教員団 棄権 群馬教員

▽3回戦

愛知教員 30—12 神奈川教員

愛教ク 12（分）12 長崎教員

抽せんで愛教クの勝ち

▽決勝戦

愛知教員 23（13—3、10—6）9 愛教ク

夏の全日本選手権回顧

第22回全日本総合選手権

山田　進
（大会副委員長）

今大会は53チーム（男子32、女子21チーム）と大会創立以来の多数の参加を得て、従来の形式で行なわれる最後の大会として開催された。前夜祭の地元婦人会の盆踊り（実施）、開会式における小学生500人による公開演技の企画と地元の力の入れようも一入であったが、台風9号通過後の天候の不順、台風10号の接近等で5日間の全日程を雨天会場で行なうという最悪の事態になったことは地元実行委員会にとって大きな誤算となった。

会場が初日四会場、第2日三会場、第3日二会場、打田町一会場と和歌山市内の会場に分散したにかかわらず、初日から大会の運営、記録、速報、輸送、接待など行届いた配慮で万事順調に行なわれた。中でも好評を博した記録速報の完璧の裏には、なみなみならぬ苦労があったことと察しられます。ただ主会場が一回の夕立で翌日使用不能という状態では、明年の国体開催時に支障を来すのではないかと危ぶまれ、グランドの排水整備等強く要望したい。

競技面では、女子は来秋の世界選手権、男子は明後年のミュンヘン・オリンピックを控えて一回戦から熱の入った好試合が展開された。

男子一回戦では、前年度の覇者全立教大が大接戦の末東京教員に敗れるという波乱を呼んだ以外は順当に勝ち進んだ。二回戦では、純然たるクラブチームの清商クラブが18―19と最後まで東京教員を苦しめた健斗に敬意を表したい。ベスト4には古豪大崎電気（協推）、新鋭ワクナガ薬品（近

第21回全日本高校選手権

嶋田　新太郎
（審判長）

全日本高等学校選手権大会は、琵琶湖々畔彦根城の天守閣そびえるここ彦根市陸上競技場に於いて、炎暑の中全国都道府県代表男女各五十二チームの参加をえて華々しく開会された。

各チーム共激しい予選を勝ち抜いてきただけに本大会への斗志は郷土の名誉と母校の栄光のため若い力に溢れ一戦一戦好試合が展開された。

先づ男子では前年優勝の下関中央工業高校が枚方高校につまづき、毎年優勝候補の筆頭になっている中央大学附属高校が新居浜工業高校に破れ、各々巨星を倒したもの同志の決戦となった。相方始めての決勝戦とあってやや堅くなったが、一点を争うシーソーゲームとなり重苦しい試合となった。

終了間際枚方はおしいノーマークシュート二本を落し一点に泣いて新居浜工業高校の初優勝が決まった。枚方高校の健斗を讃えたい。

更にベスト四に入った東海勢加納高校・松陰高校は惜しくも三位になったが、松陰高校は初出場ながら名門県の名を恥ずかしめずよく健斗し、加納も粘りを発揮して喰い下がったあたり立派であった。

更にベスト8に入った佐世保北和歌山商業の活躍が目立ち、若狭興南、富岡、小倉工業、明星高校、添上高校高岡東高校は前者に劣らぬ敢斗ぶりを発揮し大会を盛り上げた。

女子においては名門水海道第二高校と島原農業高校の対戦となり、これ又一点を争うシーソーゲームとなった

水海道谷沢と富山のシュートで先行すれば島原よく走り横田・平喜が返えして対とする等緊張した試合が展開

第13回全日本教職員選手権

片瀬　喜代次
（競技委員長）

赤い炎が燃える石油コンビナートが隣接する四日市緑地公園は、公害事業団が設立したというだけあって、陸上競技場、体育館、野球場、プール、噴水池、花壇など8万坪の立派な緑地公園であった。本大会は室内から戸外に出ようとしたが、悪天候のため、一回戦を行なっただけで体育館にコートを移した。

競技は予想された、東京教員、スワロー兵庫、埼玉教員、大阪イーグルスが総合力で他のチームより数段とぬきんでており準決勝に進出した。この準決勝は、同じ体育館で、同時に開始され、ともに実にすばらしいゲームを展開した。互に相手を知り、ハンドボールをマスターした選手同志が、速攻から、ゆさぶり、フェント、ブロック、ポスト、もてる力を行使し、ベテランと若手がミックスした攻防は見ごたえがあり、GKの美技とあわせて、息詰まる熱戦が繰りひろげられ、ハンドボール競技の醍醐味を充分に味わせてくれた試合だった。

決勝戦も追いつ追われつの、エキサイトした試合で、前半東京有利であったが、後半北井を中心に多彩な攻撃とGK高橋の巧技でのこり10分にスパートして埼玉はおいすがる東京を振り切って、二年ぶり2回目の優勝をとげた。

全体的に若い選手の台頭が目立ち、したがって試合内容が一段とスピーディーになると同時に、好試合が随所に展開されたまた選手のマナーも一段と向上し、審判上のトラブルも全くなく、指導者による大会にふさわしい大会であった事は大きな成果だと思う。また30才、40才のベテラン選手が多数健在で、若い選手を指導しているのも本大会の特長であり、彼等が懸命に努力している姿に頭が下る思いがすると同時に、いつまでも元気で、これからも毎年出場してほしいものだ。

1回戦敗者によるトーナメントも、試合内容も充実して、本大会のこれまた特長の一つとして良い成果を得た。結果は愛知

識）、三景を破った芝浦工大（学推）、日体大（学推）が勝ち残った。準決からは打田町体育館の一会場のみとなり、町民や補助員の中にもハンドボール競技の面白味や、選手の名前も覚えるようになり、観衆も多く、熱戦に一層の白熱を帯びて来た。芝浦工大はよく走り若さに溢れたプレーを展開したが、デフェンスの甘さが点差に現れワクナガに敗れた。学生界の雄、日体大も斉藤、GK本田を軸にスピードとパワーのプレーを展開したが老巧大崎のペースにはまり実力を出し切れずに敗れた。決勝戦は前半大崎が優位に立ったが、後半ワクナガが巾のある攻撃で主導権を握り、高橋が4点をものにして延長戦に入った。前半大崎は速攻で、ワクナガはセットで加点観衆を沸かせたが飯田の豪快なシュートで勝ち越し、東のポストからのシュートで振り切った。結局5人のオリンピック候補を擁する大崎の貫禄勝ちか、ワクナガでは木野、早川、高橋が光った。

女子は昨年の四冠王大洋デパートが枝尾、垂水渡辺らを中心によく走り終始安定した実力を発揮して順当に優勝をものにした。

美和クラブは準決で力尽きて敗れはしたが、二回戦で日体大を13－8、三回戦では第二延長の末ブラザー工業を14－11で敗ったことは特筆されるべきで、最後まで全力を尽された健斗に対し心から敬意を表するものであります。そのほかでは田村紡、日本ビクター、東京重機、学生界の東京女体大、初出場甲子園大の試合振りが目についた。大洋デパートの独走に誰がストップをかけるか他チームの奮起を望みたい。

最後に本大会に寄せられました関係各位の御指導、御協力、御尽力に対し深く感謝し、むすびといたします。

された。しかし双方優勝を意識してか凡ミスも多くそれだけに重い試合運びになったが、水海道第二高校の優勝となり昭和三十二年以来二度目の栄冠を飾った。しかし島原農も昨年の国体以来自身をもち無慾の進撃を続け特に川原のロングシュートが冴え、ここまでの健斗を賞讃したい。

三位になった昨年の覇者新居浜市立商業高校も健在ぶりを見せ、久し振りに顔を見せた静岡の名門静岡城北高校も足でかせぎその健斗はさすがといえよう。

夙川学院高校、熊本市立女子高校、名古屋女子高校もよく戦いとくに神崎農業高校の心境著しい善戦ぶりは立派

その他に深谷女子高校、大垣南高校、財部高校、山陽女子高校、高岡女子高校、土居高校、小諸商業高校、栃木女子高校等の新旧を問わず敢斗し各々の持味を十分に発揮してくれた。全般に今大会は天候に恵まれ、グランドも始めはローンに対していろいろ心配の面もあったがさして支障もなく乗り切った。

只一つの反省としてフェントがかけにくいということであろう。危害予防についても、各チーム監督の注意力と選手各位の努力により年々減少していることは事実で今回特にローンを使用した関係で切創が少く件数として昨年三十五件に対し本年は二十三件であったことはハンドボール界として誠に喜こばしいことであった。

競技運営も陸上競技場を使用した関係で無用の者の立入りを禁じ、スタンドで観戦した関係でよく整備され、ほこりもなくよかったが、よくをいえば観客の動員が不足ではなかっただろうか。

記録の接待、会場、受付、医療関係の補助役員もよく動き大変気持ちがよかった。本当に有難うに尽きる。

最後に滋賀県、県教委、彦根市、市教委、滋賀県高体連、ハンドボール部役員各位の努力に対し敬意を表するとともに今後の御活躍を祈り総評とする。

大会期間中の医務関係報告書

擦過傷　4　捻挫　1　打撲傷　8　胃痛　3

腹痛　1　頭痛　4　強度ヒロウ　2

教員が四日市市長杯を獲得した。

全日本教職員連盟を設立して2年目であるが、本年度は本大会以外に、ハンドボール研修会に、東京大学広田公一先生、大阪体育大学石井喜八先生、世界選手権監督村田弘先生を講師に「ハンドボール研修会」を開催、全国審判員講習会を2日目に開催、そして台中県小学教師手球隊を招待し国際親善試合を開催、その上、全国中学校指導者講習会を文部省の後援を得て開催した次第です。

台風9号と台中県手球隊にふりまわされたがすべての行事が無事に終了したことを喜んでおります。また全国大会を初めて開催した地元三重県の、田村会長をはじめとした努力に感謝します。

岡本克彰（大阪府）

（会場） 整備良好、体育館が狭い。

（運営） 全国大会の経験もなく未熟であったが誠意を示した。

（試合内容） 真面目で気持のよいプレーが見られ、若手選手の進出が目立ちチームも強化され欲をいえば試合運びに難があるコートマナーも従来と違って指導者として良好であった。

（競技服装） 背番号の位置、半パンツの色等全国大会である以上当然整えるべきである。

西川勤也（愛知県）

Ⓐ　期日および開催地について

①　盆のあいだをさけるとよい。

②　8月15日～25日の間がよいが総合選手権との問題もある

③　開始時間をはやめて終了時間をはやめたらどうか。

Ⓑ　研究会打ち合わせについて

①　参加者の増減はあると思う時間帯を考えた方がよい。

②　審判会議、監督会議を午後4時頃からにしてほしい。

Ⓒ　ゲームに関して

①　服装　○ユニホームを各チーム2着持つよう指導すべきである。○胸番号の位置が統一されていない。○単パンがまちまちで統一されていない。

②　選手の態度について　○指導者らしくつねに責任ある行動をとるべきではないかゲーム外においても同じである、反省すべき点がある。○連続断続でもよいから出場回数をきめて表彰すべきではないか。

昭和44年度

第20回 インターハイ ハンドボール出場チーム 体力測定報告

近畿ハンドボール研究会

　第20回全日本高等学校ハンドボール選手権大会に参加したチームの中から男子12チーム、女子13チーム全参加人数男子83名、女子90名合計173名の協力を得て体力測定を行なった。

　協力チームは次に掲げる高校チームである。

〔男子〕 神代（東京）、佐世保北（長崎）、マリスト学園（熊本）新居浜工業（愛媛）、下関中央工業（山口）、下松工業（山口）、添上（奈良）、枚方（大阪）、中京（愛知）、国学院栃木（栃木）、桐生工業（群馬）、富岡（群馬）。

〔女子〕 広島第一女商（広島）甲子園学院（兵庫）、高岡女子（富山）、平塚江南（神奈川）、小平（東京）、秋田和洋女（秋田）、室蘭商（北海道）、前橋市女（群馬）、高崎市女（群馬）、小禄（沖縄）、大分東（大分）、三本松（香川）

　測定項目は身長・体重・指先長・手長・手幅の形態と握力、背筋力の筋力、筋持久力としての反復上体おこし柔軟性としての体前屈上体そらし、瞬発力をみる垂直跳敏捷性をみる9m3往復走とサイドステップそれに全身持久力をみる踏台昇降テスト（5分間）を行なった。

　身長はそのまま筋肉の長短をあらわし、筋肉の長短は一般的に作業能力の優劣をあらわす、又他の身体部分が長いことをあらわす。従って腕が遠くまでとどくので防御域が大きい。体重は体の充実の度合をあらわすものである。スポーツマンであれば筋肉の量が大きいことと心臓、肺、血管系がすぐれていることが望まれる。

　指先長は片腕を挙上したときの指先までの高さである。防御又はパスの時の動作範囲の大小をあらわす、手長とは手首から指先までの直線距離である。又手幅は手掌を出来るだけ広げたときの母指先から小指の先までの距離である。これはボールを扱うときの安全度をあらわすもので、ハンドリングキャパシティの指標である。

　他の項目は体力の身体的要素としての行動体力をあらわす各成因である。

　別表に各チームごとの平均値が示されている。（25、26頁表参照のこと）

　概観すると、新居浜工業は大型チーム、下関中央は握力やサイドステップなどすぐれた機能系の良いチームらしい、添上は筋力にすぐれたチーム、富岡がこれにややにている。

　面白いのはマリスト学園である瞬発力、敏捷性にすぐれながら持久性にとぼしいと云う事、又下松工業がサイドステップに劣るなどトレーニングで注意する点があるのではなかろうか。

　それぞれのチームについて細い分析も出来るが、これを記している時期はこれらチームの解散の時期である。

　新チーム結成時に体力測定をされ欠点を補強トレーニングで強化すればよいわけである。

　細い分析が必要ならば求めに応ずることが出来る。女子チームについても同様の分析が出来、例えば大阪の大谷高校をとりあげてみると平均身長の最高のチームである。（身長）から（体重）を引くと約一〇六という差が出る、これはトレーニングがよく体重制限をしているのでスピードのあるチームとすることが出来る。

　ところで握力は最低である。そこで背筋力をみると非常にすぐれていると思われる。握力は日常生活でかなり使用しているのでトレーニングをかなりしていることがわかる。

　握力をトレーニングするにはトレーニングとともに蛋白質を補給させることである。

　トレーニングをよくしていることは筋持久力、全身持性にも表われているが胴体を動かす練習はゆきとどいているが、四肢のトレーニングはどうなっているかということが気になる。例えば握力はすでに述べたが敏捷性がもう少しあっても良いのではないか。

　このチームが昭和45年度活躍するのが楽しみである。ところで昭和44年度測定値と昭和43年度測定値の平均値の比較がしてある。

　最下段はその差である。

　身長はトレーニングで変化しにくい従って身長を大きくするには大型生徒を集めるしかないことはすでに知られるところである。

　他の要素はトレーニングで変えることができる。オールラウンドトレーニングが必要とされる所以である。

昭和４４年度出場選手体力測定

チーム別平均値及全体平均値と標準偏差値　（男 子）

近畿ハンドボール研究会

番号	チーム名	所属都道府県	体位 身長	体位 体重	体位 指先長	手長 右	手長 左	手幅 右	手幅 左	筋力 握力 右	筋力 握力 左	背筋力	反復上体おこし（30秒）	柔軟性 体前屈	柔軟性 体後反	瞬発力 垂直跳	敏捷性 サイドステップ	敏捷性 9m 3往復走	持久力 踏台昇降（5分間）
			cm	kg	cm	cm				kg		kg	回	cm	cm	cm	点	秒	指数
1	神代	東京	168.7	58.9	211.8	18.2	18.2	20.5	20.6	45.4	44.0	136.4	24.3	14.3	52.6	62.7	42.6	13.8	77.2
2	佐世保北	長崎	171.7	63.3	216.0	18.8	18.7	20.4	20.6	47.7	43.3	131.0	22.1	11.3	56.9	66.6	40.6	13.1	80.9
3	マリスト学園	熊本	168.9	62.3	213.0	18.1	18.5	20.9	21.0	49.3	45.6	138.7	20.1	13.3	47.3	68.1	45.9	13.7	76.6
4	新居浜工	愛媛	172.6	64.4	222.5	18.3	18.5	21.1	20.7	46.0	44.0	132.0	22.7	15.0	61.3	70.7	47.6	13.8	92.6
5	下関中央工	山口	171.0	63.3	219.8	18.2	18.0	20.4	20.7	54.9	48.4	138.0	24.0	13.3	59.3	66.9	50.4	13.9	81.7
6	下松工	山口	172.6	61.1	219.9	18.5	18.5	20.5	20.1	50.3	45.9	137.9	21.3	17.3	57.1	63.0	40.0	13.9	96.3
7	添上	奈良	170.3	61.3	217.4	18.2	18.0	19.9	20.4	52.9	47.6	140.1	22.9	12.1	58.4	66.6	47.1	13.7	85.5
8	枚方	大阪	172.3	64.6	218.3	18.7	18.3	20.3	20.8	49.2	43.4	133.7	23.6	11.0	59.0	67.0	45.0	14.1	86.9
9	中京	愛知	171.9	63.7	214.3	18.4	18.1	20.2	20.0	46.7	41.3	121.4	20.1	11.1	57.1	59.9	44.4	13.9	86.0
10	國學院栃木	栃木	167.4	57.9	209.4	18.3	18.4	20.3	20.1	44.1	41.6	121.7	19.4	10.1	49.9	59.4	41.3	14.2	85.0
11	桐生工	群馬	169.1	57.7	213.8	17.8	18.0	19.9	19.6	49.7	44.7	127.6	22.6	11.1	54.7	64.7	43.0	14.1	92.8
12	富岡	群馬	169.0	60.7	211.7	18.3	18.4	20.3	20.0	49.8	46.5	142.8	23.5	12.3	55.7	61.2	44.3	13.7	87.0
平均値			170.5	61.6	215.6	18.3	18.3	20.4	20.4	48.8	44.7	133.3	22.2	12.7	55.8	64.8	44.4	13.9	85.8
標準偏差値			5.20	5.33	7.38	0.78	0.79	1.04	0.94	6.47	5.28	19.81	2.28	4.74	7.92	7.46	4.48	0.34	9.97
S43年度平均値			170.2	61.7	215.0	18.2	18.4	20.8	21.0	44.7	40.6	148.5	21.1	13.4	57.9	61.8	43.5	14.6	98.5
S43年度標準偏差値			4.42	4.84	3.08	0.66	0.76	1.19	1.23	5.72	6.27	20.76	2.10	6.01	6.09	6.16	3.43	0.52	10.73
S44年度とS43年度との平均値の差			+0.3	−0.1	+0.6	+0.1	−0.1	−0.4	−0.7	+4.1	+4.1	−15.2	+1.1	−0.7	−2.1	+3.0	+0.9	+0.7	−12.7

昭和４４年度出場選手体力測定

チーム別平均値及全体平均値と標準偏差値（女子）

近畿ハンドボール研究会

番号	チーム名	所属都道府県	体位 身長	体位 体重	体位 指先長	手長 右	手長 左	手幅 右	手幅 左	筋力 握力 右	筋力 握力 左	筋力 背筋力	筋力 反復上体起し（20秒）	柔軟性 体前屈	柔軟性 体後反	瞬発力 垂直跳	巧捷性 サイドステップ	巧捷性 9m 3往復走	持久力 踏台昇降（5分間）
			cm	Kg	cm	cm				Kg		Kg	回	cm	cm	cm	点	秒	指数
1	広島ノ女商	広島	158.6	53.0	[illegible]0.6	16.1	16.6	18.3	18.2	32.6	35.3	80.9	14.0	18.7	58.4	47.9	40.9	15.1	97.8
2	甲子園学院	兵庫	161.7	58.9	[illegible]5.4	16.6	17.4	18.9	18.8	31.1	34.9	83.4	13.4	16.3	57.4	50.1	42.3	14.8	87.5
3	大谷	大阪	162.0	56.1	198.0	16.4	16.7	18.3	18.2	28.0	32.3	93.1	14.1	18.0	59.9	49.7	41.7	14.8	99.4
4	高岡女子	富山	158.9	53.3	200.3	16.4	16.8	18.1	18.1	30.7	33.9	87.0	14.1	16.4	58.6	48.4	42.6	14.9	96.0
5	平塚江南	神奈川	161.1	54.9	201.6	16.9	17.1	18.6	18.8	32.4	35.3	90.4		20.0	63.4	46.9	41.3	15.7	92.8
6	小平	東京	159.1	54.7	196.4	16.0	16.2	17.6	17.9	30.0	34.1	86.1	14.7	13.6	62.0	45.1	42.3	15.0	87.1
7	秋田和洋女	秋田	159.3	57.0	205.0	16.7	17.3	18.9	18.6	32.9	36.0	88.6	11.9	18.7	61.9	49.4	44.3	14.7	87.3
8	室蘭商	北海道	157.9	57.1	200.3	16.4	16.6	17.8	18.0	33.3	34.9	93.3	14.1	18.6	59.1	50.9	45.1	14.7	81.5
9	前橋市女	群馬	157.0	54.0	199.6	16.9	17.0	18.0	18.1	32.9	35.6	100.9	13.7	16.1	52.3	48.4	42.7	14.9	85.3
10	高崎市女	群馬	156.4	50.9	194.7	15.9	16.3	17.8	18.1	29.7	32.7	85.1	14.1	17.1	55.7	50.3	38.4	15.3	88.0
11	小禄	沖縄	155.8	50.2	195.0	15.3	16.0	18.2	18.3	29.5	30.7	85.5	13.0	16.7	60.2	49.2	39.8	15.4	85.1
12	大分東	大分	158.7	58.5	204.5	17.0	17.0	19.5	19.4	35.0	39.2	94.3	16.3	16.0	61.8	47.6	43.3	14.1	91.0
13	三本松	香川	156.9	50.9	198.0	16.3	16.8	18.2	18.5	29.0	32.6	71.0	13.0	16.3	61.3	47.0	42.5	15.0	84.0
平均値			158.7	54.5	199.9	16.4	16.8	18.3	18.4	31.3	34.4	89.2	13.8	17.1	59.4	48.5	42.1	15.0	89.4
標準偏差値			4.58	4.89	7.15	0.86	0.84	1.05	0.97	4.24	4.36	12.70	1.55	4.26	5.65	5.21	2.51	0.49	9.57
S43年度平均値			159.2	58.0	200.7	17.1	17.1	18.8	18.8	28.9	26.0	103.9	12.9	16.1	59.7	47.8	41.1	15.4	96.5
S43年度標準偏差値			4.41	4.93	6.73	0.37	0.96	1.03	1.02	4.22	4.31	18.50	1.36	5.72	5.30	5.69	2.40	0.47	14.24
S44年度とS43年度との平均値の差			−0.5	−0.5	−0.8	−0.7	−0.3	−0.3	−0.4	+2.4	+8.4	−14.7	+0.9	+1.0	−0.3	+0.7	+0.9	+0.4	−7.1

★☆★☆★☆★☆★

海外トピックス

——杉山　茂——

西ドイツ、夏に異例の室内

いぜん11人制を孤守する西ドイツが、異例ともいえる夏のシーズンに室内の国際試合4カードを組んで注目を集めた。

招待されたのはデンマークとソビエトで、デンマークには、ルブキング、シュミットらレギュラーを揃えたナショナルが顔を合せ22—16で勝った。

ソビエトには単独チーム（クラブ）が対戦、ハンブルグが19—15で勝ち気勢をあげたが、VfL・バドシュワルトウは20—26、フレンスバーグは17—26で敗れた。

各試合とも四千—六千のファンが集り一応の成果をあげたが、このシーズン外に室内を行なった西ドイツの真意はどこにあるのだろうか。

男子でユーゴ優勝
女子は東ドイツが首位

ユーゴ協会主催によるタシマイダン杯（男子）・ザグレブ杯（女子）は男子4ケ国、女子6ケ国が参加して開かれ、男子はユーゴが世界3位の実力を示して優勝、女子は東独が激戦を勝ち抜いて1位となった。

▽男子

ハンガリー	16—12	ソビエト
ユーゴ	18—16	ポーランド
ソビエト	23—11	ポーランド
ユーゴ	18—15	ハンガリー
ハンガリー	15—14	ポーランド
ユーゴ	19—13	ソビエト

【順位】①ユーゴ②ハンガリー③ソビエト④ポーランド

▽女子

ソビエト	14—9	チェコ
東ドイツ	7—6	ハンガリー
ユーゴ	9—3	ノルウェー
東ドイツ	12—7	チェコ
ソビエト	12—9	ノルウェー
ハンガリー	7—6	ユーゴ
ハンガリー	10—8	ノルウェー
東ドイツ	17—15	ソビエト
ユーゴ	14—9	チェコ
ハンガリー	14—8	ソビエト
チェコ	13—10	ノルウェー
東ドイツ	9—6	ユーゴ
東ドイツ	10—6	ノルウェー
チェコ	7(分)7	ハンガリー
ソビエト	8—2	ユーゴ

【順位】①東ドイツ②ハンガリー③ソビエト④ユーゴ⑤チェコ⑥ノルウェー

主要大会の日程決まる

フランスのスポーツ紙〝レキプ〟によると新シーズンの年内における国際室内ハンドボール大会の日程が次のように決まった。いずれも各国ナショナルが出場する。ヨーロッパカップについては未定。

▽バルティック杯　9月8～12日 ▽テイミソアラ杯（カルパチア杯）11月18～22日 ▽シュエリン・トーナメント　12月15～20日 ▽ノルウェー・オポール杯　12月2～4日（予定）

両チーム合わせて71点

ユーゴの国内リーグ（男子）で珍記録が生まれた。

チャンピオンチームのパルティザン・ブジエロバール×ボラク・バンジャルカの試合は大乱戦となりスコアはなんと41対30。両チーム合わせて71点という考えられないような得点となった。これはユーゴの得点合計新記録だそうな。

全員の7MTで決着
世界学生、延長同点の場合

延長戦を行なってもなお同点の場合はGKを除く全員が7MTを1回づつ行ない、そのゴール数で勝負を決める。それでも引き分けの時は抽せん——来年4月チェコで開かれる第4回世界学生選手権の競技要項の一節（4の58及65条）である。

この規定を知らされた日本協会は、「この大会の特別規程だろう」と驚ろきながらも、サッカーの例もあり、将来は国際ルールに成文化されるとみている。

かなりのヨーロッパ通でも寝耳に水の話だが、9月の国際ハンドボール連盟（IHF）総会の議題になるかも知れないという。

東西対抗メンバー決まる
全日本学連が発表

全日本学連では9月6日名古屋で行なう第20回全日本学生選抜東西対抗戦（女子第2回）の両軍メンバーを次のとおり発表した。今年から東海学連が男女とも西軍所属となる。

○……東　軍……○

【男子】▽監督　北川勇喜（日体大監督）▽マネジャー　谷萩勉（日体大）▽GK本田（日体大）、望月（中央）▽FP斉藤、亀谷、安達、田中、串野、氷海（以上日体大）、植田、花輪、佐々木（以上中央）、新美、大江（以上芝浦工大）、石田（仙台大）、酒尾（金沢工大）。

【女子】▽監督　藤原侑（日体大監督）▽マネジャー　野原文子（日体大）▽GK秋間（日体大）、坂野（東女体大）▽FP高嶋、永田、小貫、島田、木村、福田（以上日体大）、中島、高橋、堀江、水上（以上東女体大）、韮沢（東京教大）、海野（日女体大）、加藤（東京学芸大）。

○……西　軍……○

【男子】▽監督　中江義雄（同志社大OB）▽マネジャー　佐藤吉平（桃山学院）▽GK入江（関大）戸田（中京）、脇田、清水（以上大阪経大）、中野、中井（以上同志社）、安積、石田（以上山口大）、土田（桃山学院）、宮松（関大）勝田（名城）、足立（中京）。

【女子】▽監督　岡本克彦（日体大出）▽マネジャー　和歌美智代（甲子園）▽GK　柿田（甲子園）北岡（中京女）▽FP辻、吉開山本、篠原、岩井（以上甲子園）安田、石山、野口（以上中京）、大坪、近藤、大崎（以上中京女）森崎（大阪体大）、加村（大阪教大）。

近森選手、西独へ留学

大崎電気所属の近森克彦選手（芝浦工大出、25才）は、このほど西ドイツへ1年間〝ハンドボール留学〟することになり、8月24日離日した。西ドイツの名門HSV・ハンブルグクラブに加る予定。

このため同選手は日本協会第一次オリンピック候補を辞退した。

ブロック高校選手権（続報）

インターハイ（全日本高校選手権）に先立って行なわれた各地域高校選手権の記録は次のとおり。なおこれで今年度のブロックチャンピオンが出揃った。（北海道・東北・中国は既報、東海・九州は次号で詳報）

第16回 関東高校

◇7月22日～25日、◇埼玉県秩父高グランド、◇男32校、女32校。

男子は中大附属（東京）が決勝で明星に逆転勝ち、2年ぶり2度目の優勝、東京代表は8連勝した。

女子は水海道二（茨城）が制勝9年ぶり4度目の優勝をとげた。

▼男子1回戦

浦和市立（埼）12―10 府中（東）
明星（東）18―4 機山工（山）
科学技術学園（東）13―12 笠間（東）
塩山商（山）16―8 川崎市立（神）
横浜一商（神）22―7 足利商（神）
坂戸（埼）23―10 石岡市立（茨）
麻生（茨）16―12 足利（栃）
馬頭（栃）20―14 小金（千）
富岡（群）19―4 八千代（千）
国学院栃木（栃）18―9 日川（山）
竜ケ崎一（茨）15―12 前橋工（群）
佐原（千）12―11 前橋商（群）
中大附（東）23―11 大宮（埼）
大和（神）12―4 桐生工（群）
桜ケ丘（神）28―8 清水（千）
川口工（埼）15―11 日大明誠（山）

▽同2回戦

明星 14―12 浦和市立
塩山商 14―12 科学技術学園
横浜一商 19―14 大和
坂戸 16―13 麻生
桜ケ丘 19―10 馬頭
富岡 12―9 国学院栃木
竜ケ崎一 9―7 佐原
中大附 20―7 川口工

▽同準々決勝

明星 11（5―6 6―3）9 塩山商
横浜一商 25（15―3 10―7）10 坂戸
富岡 17（5―4 12―2）6 桜ケ丘
中大附 20（11―3 9―3）6 竜ケ崎一

▽同準決勝

明星 19（12―3 7―10）13 横浜一商
中大附 16（9―5 7―6）11 富岡

▽同3位決定戦

富岡 16（7―9 6―2）11 横浜一商

▽同決勝

中大附 12（4―8 8―2）10 明星

▼女子1回戦

昭和学院（千）18―0 足利（栃）
桜水商（東）6―3 麻生（茨）
栃木女（栃）20―1 川崎市女（神）
深谷女（埼）15―3 甲府商（山）
水海道二（茨）22―5 小山城南（栃）
佐原女（千）16―2 朝霞（埼）
神代（東）7―5 浦和市南（埼）
山梨（山）15―1 川崎（神）
前橋市女（群）27―3 木更津（千）
桐生女（群）3―2 塩山商（山）
鉾田二（茨）12―2 菊華（東）
国学院栃木（栃）13―3 高崎女（群）
小平（東）8―3 二俣川（神）
高崎市女（群）18―1 八千代（千）
平塚江南（神）12―7 足利女（栃）
八郷（茨）

▽同2回戦

昭和学院 2（分）2 桜水商

抽せんで昭和学院の勝ち

深谷女 8―7 栃木女
水海道二 11―5 佐原女
山梨 7―2 神代
前橋市女 9―5 八郷
鉾田二 10―1 桐生女
国学院栃木 8―4 小平
平塚江南 11―2 高崎市女

▽同準々決勝

深谷女 10（3―3 7―0）3 昭和学院
水海道二 5（0―0 5―2）2 山梨
前橋市女 8（2―1 6―3）4 鉾田二
国学院栃木 7（3―2 4―3）5 平塚江南

▽同準決勝

水海道二 4（2―2 2―1）3 深谷女
国学院栃木 14（6―1 8―5）6 前橋市女

▽同3位決定戦

深谷女 8（5―3 3―3）6 前橋市女

▽同決勝

水海道二 8（4―2 4―1）3 国学院栃木

第6回 北信越高校

◇6月27、28日、◇富山市大門中学グランド、◇男10校、女10校。

男子は長野勢の決勝から北佐久農がインタ・ハイ代表の上田を降し初、女子は高岡女（富山）が同県の小杉を退け2年ぶり4度目の栄冠を得た。

▼男子1回戦（2試合）

羽水（福井）12（5―6 7―4）10 巻（新潟）
柏崎工（新潟）7（3―2 4―1）3 二上工（富山）

▽同準々決勝

上田（長野）12（6―3 6―2）5 県立工（石川）
北佐久農（長野）15（6―4 9―2）6 星稜（石川）
羽水 17（7―3 10―8）11 高岡東（富山）
若狭（福井）8（6―2 2―4）6 柏崎工

▽同準決勝

上田 6（4―3 2―1）4 羽水
北佐久農 11（6―3 5―2）5 若狭

▽同決勝

北佐久農 9（5―1 4―2）3 上田

▼女子1回戦（2試合）

小杉（富山）7（3―2 4―1）3 福井商（福井）
明訓（新潟）7（2―1 5―3）4 若狭（福井）

▽同準々決勝

北佐久農（長野）2（1―0 1―1）1 柏崎常盤（新潟）
小諸商（長野）10（5―2 5―2）4 羽咋（石川）
小杉 7（2―2 2―2 3―1）5 小松市女（石川）
高岡女（富山）10（3―1 7―0）1 明訓

▽同準決勝

小杉 14（7―1 7―2）3 北佐久農
高岡女 9（4―3 5―2）5 小諸商

▽同決勝

高岡女 8（3―0 5―1）1 小杉

第17回 東海高校

◇8月27、28日、◇豊橋市時習館高グランド、◇男8校、女8校。

男子は新鋭・松蔭（愛知）が強豪を連破して初優勝、清水商（静岡）の3連勝は成らなかった。

女子は静岡同士の決勝から静岡城北が接戦の末、清水西を制し、

5年ぶり6度目の優勝を記録した

▼男子決勝

▽同決勝

松蔭（愛知）15（6－2　9－5）7　加納（岐阜）

▼同決勝

静岡城北（静岡）5（3－3　2－1）4　清水西（静岡）

第13回 近畿高校

◇7月22～24日、◇大阪府春日丘高グランド、◇男32校、女16校。

男女ともインタ・ハイ代表が安定した攻守を示し、男子は枚方（大阪）が2連勝、女子は大谷（大阪）が2連勝。

▼男子1回戦

城東工（大）15－5　市和歌山商

武庫工（兵）18－9　鳳（大）

乙訓（京）18－14　十津川（奈）

佐野工（大）21－9　滝川（兵）

高島（滋）11－7　御坊商工（和）

生駒（奈）17－9　嵯峨野（京）

▽同2回戦

城東工 8－10　添上（奈）

武庫工 11－7　彦根東（滋）

県和歌山商（和）15－8　乙訓

八幡工（滋）没収　都島工（大）

桜井商（奈）12－8　高島

枚方（大）19－5　新宮（和）

県兵庫工（兵）19－11　生駒

佐野工 15－10　塔南（京）

▽同準々決勝

武庫工 16（8－9　8－6）15　城東工

県和歌山商 5（4－1　1－3）4　八幡工

枚方 10（5－4　5－2）6　県兵庫工

佐野工 14（8－2　6－5）7　桜井商

▽同準決勝

武庫工 10（3－2　7－4）6　県和歌山商

枚方 18（8－6　10－4）10　佐野工

▽同決勝

枚方 16（6－4　10－6）10　武庫工

▼女子1回戦

大谷（大）16－1　明徳商（京）

粉河（和）4－2　高島（滋）

夙川学院（兵）14－5　貴和（和）

生駒（奈）6－2　梅花（大）

八幡商（滋）7－4　十津川（奈）

京都女（京）4－2　豊中（大）

寝屋川（大）8－2　御坊商工（和）

枚方（大）11－6　豊岡女（兵）

▽同準々決勝

大谷 12（7－1　5－0）1　粉河

夙川学院 10（3－1　7－0）1　生駒

八幡商 6（3－3　3－2）5　京都女

枚方 5（3－1　2－2）3　寝屋川

▽同準決勝

大谷 10（3－1　7－2）3　夙川学院

枚方 3（1－0　2－2）3　八幡商

▽同決勝

大谷 10（4－2　6－0）2　枚方

第18回 四国高校

◇7月22～24日、◇松山市松山北高グランド、◇男16校、女14校。

男子は今年も新居浜工（愛媛）が強味を見せ第1回以来の連勝記録をまた一つ伸ばした。

女子は、インタ・ハイ（前年）優勝の新居浜市商（愛媛）が、決勝で進境いちぢるしい土居（愛媛）の追撃を辛くもかわして5連勝

▼男子1回戦

多度津工（香）18－15　松山北（愛）

追手前（高）28－2　城南（徳）

新居浜工（愛）32－3　高知西（高）

高松一（香）17－3　城北（徳）

松山工（愛）16－9　須崎工（高）

徳島東工（徳）17－4　土庄（香）

池田（徳）21－6　土佐（高）

三本松（香）15－8　新田（愛）

▽同準々決勝

追手前 26（13－1　13－4）5　多度津工

新居浜工 16（7－4　9－5）9　高松一

松山工 13（8－3　5－4）7　徳島東工

三本松 12（7－3　5－2）5　池田

▽同準決勝

新居浜工 15（10－2　5－5）7　追手前

松山工 12（7－2　5－5）7　三本松

▽同決勝

新居浜工 23（12－0　11－6）6　松山工

▼女子1回戦

新居浜西（愛）13－1　高松一（香）

高松女商（香）8－5　勝浦園芸（徳）

土居（愛）20－0　高岡（高）

池田（徳）9－5　松山商（愛）

高松南（香）7－3　高知西（高）

三本松（香）7－2　山田（高）

▽同準々決勝

新居浜西 8（1－1　7－3）4　追手前（高知）

土居 6（2－3　4－0）3　高松女商

池田 9（3－1　6－1）2　高松南

新居浜商（愛媛）10（7－3　3－1）4　三本松

▽同準決勝

土居 10（4－1　6－1）2　新居浜西

新居浜商 8（3－5　5－0）5　池田

▽同決勝

新居浜商 8（3－3　5－4）7　土居

第20回 九州高校

◇6月23、24日、◇福岡県博多高グラウンド、◇男15校　女16校

男女とも新進校の抬頭が目立ち男子は佐世保北、女子は佐世保商と長崎勢がともに初優勝。

▼男子決勝

佐世保北 13（5－7　8－1）8　小倉工

▼女子決勝

佐世保商 7（5－3　2－3）6　島原農

各地の記録

名古屋市が2連勝

▼第21回5大都市体育大会（7月・神戸商体育館）注・ハンドボールは第8回。

▽リーグ戦

神戸 17（8－7、9－10）17 京都
引き分け
名古屋 20（9－9、11－7）16 大阪
横浜 27（13－9、14－4）13 京都
名古屋 29（16－10、13－7）17 神戸
横浜 23（11－14、12－7）21 大阪
名古屋 18（9－3、9－3）6 京都
横浜 21（14－6、7－5）11 神戸
大阪 26（17－4、9－6）10 京都
名古屋 21（8－6、13－3）9 横浜
大阪 27（17－8、10－7）15 神戸

【順位】①名古屋市4戦全勝＝2連勝2度目の優勝②横浜市3勝1敗③大阪市2勝2敗④神戸市3敗1分（得失点差マイナス34）⑤京都市3敗1分（マイナス42）

女子で青森西が快勝

▼第23回青森県高校総体ハンドボール競技（6月・鯵ケ沢高）

▽男子予選リーグA組
三本木 11－9 青森
鯵ケ沢 19－13 青森
鯵ケ沢 19－8 三本木

▽同B組
七戸 13－9 柏農
青森商 14－10 七戸
青森商 15－14 柏農

▽同5・6位決定戦
青森 17－12 柏農

▽同3・4位決定戦
三本木 16－12 七戸

▽同決勝
鯵ケ沢 9（5－7、4－1）8 青森商

▽女子決勝リーグ
青森西 61－1 大湊
三本木 9－4 七戸
青森西 20－6 七戸
三本木 11－8 大湊
大湊 7－4 七戸
青森西 23－1 三本木

【順位】①青森西②三本木③大湊④七戸

上位は自衛隊勢が独占

▼第1回勝田（茨城）市民大会（7月・勝田市）＝男子のみ

▽準々決勝
自衛隊管理中隊 11－2 茨城工専
自衛隊学校 16－10 勝田工高
自衛隊三中隊 15－4 日立製作所
コンバット 12－10 日立工機

▽準決勝
自衛隊管理中隊 15－6 自衛隊学校
自衛隊三中隊 27－5 コンバット

▽決勝
自衛隊三中隊 14（7－3、7－4）7 自衛隊管理中隊

神戸大が全勝優勝

第14回国立8大学大会（第9回国立7大学総合体育大会）は7月28、29、30日の3日間福岡教育大グランドで行なわれ、神戸大が京都大、東北大の挑戦を退け無敗で優勝を飾った。9年ぶり3度目のことである。

甲南大勝つ

▼第17回甲南大－慶応大定期戦（6月28日・神戸）

甲南 18（10－8、8－9）17 慶応

甲南大は2連勝、通算成績は慶応の13勝4敗。

中学大会記録

▼愛知　第24回県中学総体（8月名古屋）

▽男子準々決勝
尾西一 11－8 上野
三谷 16－15 一宮北部
豊岡 13－10 港北
笹島 10－4 一宮南部

▽同準決勝
三谷 16－12 尾西一
豊岡 8－6 笹島

▽同決勝
三谷 13－12 豊岡

▽女子準々決勝
六ッ美 10－7 尾西一
一宮南部 10－6 上野
笹島 10－4 豊岡
三谷 13－5 一宮北部

▽同準決勝
一宮南部 11－3 六ッ美
三谷 6－5 笹島

▽同決勝
一宮南部 11－6 三谷

▼兵庫　第14回県中学総体（8月鈴蘭台高）

▽男子準々決勝
望海 10－9 筒井台
布引 16－5 浜の宮
夢野 20－7 大久保
湊 20－6 丸山

▽同準決勝
布引 17－3 望海
夢野 12－10 湊

▽同決勝
布引 15－11 夢野

▽女子準々決勝
苅藻 27－0 二見
望海 9－4 神戸
湊 14－3 大蔵
明親 7－0 夢野

▽同準決勝
苅藻 11－2 望海
湊 10－8 明親

▽同決勝
苅藻 11－5 湊

地方球信

【名古屋】3年前から始められた愛知協会の恒例「30才以上大会」は7月19日名古屋市体育館に教員ク、桜丘会、名大の各OBチームが参加して行なわれ、栗脇愛知協会理事長をリーダーに愛知学芸大（現愛知教大）全盛時のメンバーを主力とした教員クOBが若さ？にあふれたプレーで2勝、昨年につづいて優勝した。

2位の桜丘会OBは浅野、斎藤、山田、高村らかつてのナショナルプレイヤーが揃い、名大〝オールド〟OBも田中全日本実連理事長をはじめ関口（旧姓近藤）、服部、太田、関谷と第一黄金期の主力がズラリ。第1回インター・ハイ出場の緒方逸雄氏（桐生工出）も東京からはせ参じるなど賑やかだった。来年からは参加者を懸案の〝全国化〟する予定。（T）

編集後記

夏の三大会の記事を満載しました。他に日体大の松原選手のお父さまからインターハイの選手諸君を詠んだ歌をいただき掲載させていただきました

この18・19日にはIHFの総会がマドリッドであり、今後の球界の重要事項が決められましょう。少しでも良い方向に向つてほしいものです。（TSF）

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第七十九号
昭和四十年六月（　）日 第三種郵便物（認可）
昭和四十五年八月二十五日印刷
昭和四十五年 九 月 一 日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 大代表(467)三一二一
振替 東京五八三四八番
編集兼発行人 保坂周助
定価百五十円
（年間購読11回・千二百円）